



春滝寺谷の流れ

残雪の谷に

小さなアマゴの群れを見た  
陽光に輝く銀色の魚体は  
一瞬にして岩間に身を隠す

このやわらかな光の中で

何もかもが新しく生まれ変わり  
私の歩調も

穏やかなリズムをくり返す  
ふと峠の石仏に足を止めた時  
北山の良さがしみじみと  
胸に伝わってきた



春のいぶき (千谷山)

## 京都北山撮影紀行 ③

# さん や しょう ゃう 山野逍遙

— やわらかな光の中で —

撮影 北川 裕久



大見雷原 (大原大見町)

●目次

表紙：松田敏男「早春の夜叉神峠より農鳥岳を仰ぐ」

●作者プロフィール ●1949年、東京都生まれ、京都市立芸術大学、  
1981年より山岳新聞、山岳家の習志多岐新聞、(京都平泉新聞、南アルプス山岳小報、北)  
京知山と野に親しむ会代表、日本山岳会委員、一等山岳点研究会員

●グラビア	京知北山撮影紀行	山野逍遙	北川 裕久	2
	随想(山のエッセイ)			
	ペン・ネイビス山のこと	浅野 孝一		
	春闘	稲垣いつを		
	私とハイキング	林 吟次郎		
紀行	馬ノ鞍峰	慶佐次盛一		
	奥鞍岳稜線縦走	柴垣 貞夫		
	釜口山	多摩 雪雄		
	日本霊山紀行1 富士山	浅野 孝一		
	奥ノ送峰	松田 敏男		
エリア	京都北山(一) 鞍ヶ畑周辺の山	北川 裕久		
別研究	陽春の北山核心部を歩く(振原)			
	①半田高山	30		
	②残照ヶ岳	31		
	③北山の峠めぐり	32		
	④長坂越と十三石山	33		
	⑤持越峠とタラノ坂	35		
	未知の北山探訪チセロ谷山からナメラ谷	36		
	未知の北山探訪チセロ谷山からナメラ谷	37		
●文学歴史探訪ハイク	③ 東大寺二月堂に巻を求めて	松永 恵一		
コース	1 藤原岳	小山ひろし		
ガイド	2 雨石山から櫃ヶ塚	安田 豊弘		
	3 生石ヶ嶽	濱田 啓司		
	4 鷲冠山から龍王山	村田 智俊		
●アウトドア・ライフ入門	③			
	フキノトウ研究	二名 良日		
	たのしい山歩き			
	尾瀬雑考③「春に咲く尾瀬の花」	松下 清		
	沿線ハイキングガイド	55		
	せせらぎ	59		
	ナービスチェーン	59		
	バス時刻(京知)	66		
	原稿募集・びき案内	62		



東海展説より宮指路岳西南稜 (鈴鹿) 鍋島玄



宮指路岳馬のり岩 (鈴鹿) 鍋島玄

ハイキングの楽しみにはいろいろ重要な要素があると思うが、やはり季節の移り変わりによる自然とのふれ合いが大である。  
私もその季節に応じて各種ガイドブックや登山地図を参考に2ヶ月単位ぐらいで計画を立てる。四季と日との中間をとって1年を6回に分けると日本の自然とうまく調和するようになると思う。この雑誌もそんなことから年間6号を発行することになった。  
同じ山でも季節を変えて歩くと印象が違山の変容も違って見える。又同じ季節でもアプローチやルートを変えて登ると新しい発見に出会う。こうして回回が通ううちにその山の真価が分かってくる。このようにして歩けば關西の山だけでも年々楽しんで歩くことが出来るし、雑誌のネタは尽きない。  
さて、たのしかった山歩きから帰来後は是非登山日記帳(山行日記)を準備しておこう。コースタイム、メンバー、費用、観察箇などに添えて山行中の展開や感想などを書く。写真の一枚でも付けておくとよい思い出になるだろう。  
この雑誌は皆さんの山行記録が集まって創られるのです。どうぞそんな山行記録からの寄稿をお待ちしています。  
新ハイキング指南(代表) 村田智俊



克

ペン・ネイビス山  
のこと

浅野 孝一

奥本六郎さんの新著「本を  
松」を再読した。忘れてしまっ  
た内容が多くあったので、再読し  
たことがよかつたなあと思つた。  
その中で「英語の虫」の項は、英  
文学者の市河三喜の「昆虫と英  
国民性」(昭和14年、研友社)に  
引かれてある。その文章の中  
に市河博士がスコットランドにあ  
るペン・ネイビス山に登つた事  
が記されてある。  
早瀬本棚から市河博士の本をさ  
がし出して読んでみると、20ペー  
ジに「雑々から英語」の文章があ  
つて山の事が出てあるではない  
か。それは「山ではイギリスには  
高いのは峰々大抵「ヒル」とい  
う程度のもので、最盛期のペン・ネイ

ビスにしても四千五百はかり  
で頂上迄オートバイで登れると云  
ふ有様だが、それでも高山らしく  
夏でも虫があり、又きまつて重荷  
が一二匹居て高山気分を味はし  
てくれる。それから又きまつて霧  
が深くても何も見えない」と書かれ  
てあつた。  
市河博士の奥さんの河野不二子  
さんの「山の素顔」という本を読  
んだのは、私が13歳のころであつ  
たことを思い出す。私のまづしい  
記憶の中で、ペン・ネイビス山に  
登つた日本人は横濱「ハイランド」  
の著者辻村伊勢と「沢河の山歌」  
を書いた地形学者田中熊博士だけ  
だと思つていたが、英文学者市河  
三喜が登山していたとはおどろい  
た。定札を云い方感極です。  
昨年夏、私もペン・ネイビス  
山に登つたので、ひとしお感極  
いものがあつた。その時私はパー  
ティから大部おくれ小南と霧に  
けむる山頂に立つた。  
奥本さんには、この本の他多数



の虫に因する書があるが、特に  
「虫の宇宙誌」の名がある。こ  
の本の中に数頁市河博士の山で遊  
した市河博士のことが書かれ  
ている。たしか集英社の文庫本に  
もなつていたので、一度お読みか  
なる事をおすすめしたい。  
市河博士の本は、熊存知の事と  
思うが、中央公論社から出版され  
た「山と雲と善人と」であつて、  
山に遊かれた人たちの文章は読ん  
でいて楽しい。熊博士は太平洋  
戦争末期、北のルネオ(現カリマ  
ンタン)を調査中に消息を絶つた。  
先日ある街頭でペン・ネイビス  
というスコッチを出され、なつか  
しく飲んでゐる内に、いたく驚  
してしまつた。というオマケまで  
ついてしまつた。  
注四五千五百尺約1350m



克

随想 (山のエッセイ)

春蘭

稲垣 いつを

初めてこの花に出会つたのは小  
学生時代。母のいいつけで、押し  
脂に使うハナミョウガの葉をとり  
に、水道タンクの奥の雑木林に出  
かけた時だ。一面ヒトツバに振わ  
れた石の片間に、可憐にたまたむ  
この花を見つけたのは。それは、  
これまでに見たどの花ともちが  
つていた。いや、それが花かどうか  
さえも定かではなかつたのだが、  
なぜかボクはドキッとした。オッ  
と思つた。一時、おとぎの国に踏  
み込んだような、近寄りたたい戸  
惑いを感じた。そして言ひようの  
ない感動がボクをゆっくりと包み  
込んでいった。  
この一種ふしぎな雰囲気はただ  
よわせている草花が、たぶん、シ

ニランだろうということ、自  
称「植物博士」の兄によって知らさ  
れた。母江それを「ネクロ」と呼  
んだ。今、「牧野新日本植物図鑑」  
(北隆館)を見てみると「葉弁  
にある斑点を腹面の暗くろにたこ  
えたものであろう」とある。  
以来ボクは、ますます山に深入  
りしていった。今まで数えきれな  
いほどの花たちとの出会いを山を  
てきたが、ラン科の植物とのそれ  
は特に強烈なものがあつた。中で  
も、まるでその身を幽期の縁と光  
に消し去るようにして咲くこのシ  
ニランとの出会いに、ボクにと  
つて決定的な何かがあつたように  
思う。  
「草花記」には「春蘭(報春花)  
とある。「日本大辞典」(丸善社)  
刊)には「東洋では昔から、秋菊  
と並んで、その姿清らからて俗氣を  
帯びないのを賞賛された。……本  
当の春蘭は中国産に育つべきで、  
内地産のものにははくりである」と  
いう山本健吉の解説が出てゐる。

「草花記」にも「深山秋菊俱に  
すべからず(中野文編)」とある。  
また、「牧野新日本植物図鑑」の  
記述は、「ばくろ(てんらん)」と  
なつており「シニランは漢名の  
葉蘭から来ているが其の春蘭は本  
種の近似種で、支那特産で漢名葉  
蘭で近時支那春蘭といつてい  
るが、花は香氣が強く、また気品  
の高い語品種が多数にあつて高価  
である」とある。  
最近野草ブームでこの支那春  
蘭、今は中国春蘭と呼ばれている  
ものが、けっこう出まわつてゐる。  
確かに香氣が強く気品があつて高  
価である。かといつて、日本のそ  
れが氣品がないというのではな  
い。両者のちがいは香氣の種類  
の差だけである。日本春蘭にもま  
れに香氣の高いものがある。そう  
なると俄然物色もはね上がる。  
ところで、よくよく考えてみれ  
ば、あれほどすぐれて、氣品の高い  
日本春蘭(はくり)に、この野草  
ブームの中で未だ危機感すらす



随想 (山のエッセイ)

えるのはどうしてだろう。たぶんそれは、あまりと問はずあまりと「白むさるを得ない」「ホクコ」という名称と、物理的香気の不足によるところが大きなのではないか。香氣、色香が命とりという例はどんな世界にもよくあることだ。皮膚も解けた。陽もあたらない。次の日曜あたり、近くの林を訪ねてみるか。



### 私とハイキング

林 吟次郎

私とハイキングとの出会いは、もう20年も前になります。突然右半歩が不自由になり、「病気のため」リハビリを兼ねて歩き出したことに始まります。少々無理がきくようになればうれしくて、ガイドブックを手にして、よく京都北山あたりへ出かけたものでした。にわか雨にあたって、すおぬれになって困ったところを同業社の女学生のグループに助けてもらった。雨の中を花背峠から大見へ抜けようとスパッツも付けないで途中で引き返したりと、いろいろなことが思い出されます。

うと思ひ、岩場を下山していたところ、突然「パーン」という歓声がして、私が私のすぐそばかを通り抜きました。大声を出して叫び、相手と「話ほど話してしまいが、相手もまさしく思つたのでしよう、いなくなりました。持つていたトランジスタラジオのボリュームをいっばい上げて憶えて引き返しました。お互い持道具の山歩きは気をつけたいものです。

その後ひとり歩きがこわくなつて山のサークルに入会しました。一昨年3月にはチヨコレイト1枚で伊吹山に登ってくる人に出会いました。

「頂上でうどんなでも食べて、パスで帰ります……」と、もちろん、この時季では山頂の食糧も開けられてなく、パスもありません。私たちのグループで弁当など分けてあげましたが、登山をする前は十分下調べをして行動して欲しいと思います。昔の自分を思い出さうでこわい気持ちになりました。

## 入之波温泉から 馬ノ鞍峰

台高山脈は私を魅惑して離さないが、縦走はもうこの歳では無理だ。せめてピークハン卜位ならと、昨年11月に馬ノ鞍峰を目標したが大雨に追い返されてしまった。今年こそはと、4日の連休に再び馬ノ鞍峰と山ノ神の頭を自給自足で登った。

2台の車で大阪から国道309号線まで金剛山脈を越え、下市から国道169号線を吉野川沿いにひた走る。宮後で右折、五辻トンネルを抜けると奈良吉野川上村だ。大滝を過ぎると国道は山腹の高架道となり、旧道の細い車道の方は高架の下に細々と残っている。現在ダム建設中で、完済すると旧道沿いの民家は全戸ダムの底に沈むこの辺りの様相も一変してしまつたらう。しかし、私達山旅人の目

## 慶佐次 盛一

### 台高

を楽しませてくれた吉野川の清流が、ただのよどんだ水面になつてしまふのが残念だ。丹波川上土着の轡を通り抜け、白屋、四子岩山、勝呂山、白旗岳へのアプローチに使つた懐かしい小さな村を次々と通り過ぎて行く。大迫ダムで旧道を離れ、ダムの上を渡つて入之波温泉への車道に入る。車道はきれいに舗装されているが極端に狭くなり、大迫貯水池の右岸を小刻みにカーブをきりながら走る。3つ目のトンネルを抜けると入之波温泉だ。こんな所に温泉がと思われる秘湯だが、特産物があるように、湖中にはボートも浮かんでた。

入之波温泉で橋を渡り、大迫貯水池左岸の車道へ移つて暫く走り坂谷の二ノ股出合に着

馬ノ鞍峰頂上



く。きれいに舗装された車道もここまで、真つ直ぐ登るのは危険だが、二ノ股出合で橋を渡り今度は北股川の右岸沿いの林道を走る。一応は舗装されているが道路の状態は悪く、対向車を避けきれない所もある。右の山間は岩を削つた荒々しい壁が続き、左は北股川の崖面を見下ろして肝を冷やしながら走る。私は後ろに集めてもらつていただけだが、運転しているNさんとOさんのハンドルまきは

見事なものだ。

やがて三之公川合、三之公橋を渡り急カーブで三之公川の林道に入る。舗装道はすぐに終わり、あとは地道の林道になった。途中の飯場小屋を通り、がたがたと揺れる車はやつと林道終点の明神出合の駐車場に着いた。

大阪市内から約4時間もかかりも登頂さすがに長いアプロコチだった。連休の天気予報はかんばしいものではなかったが、やはり曇天だった。雨が落ちてこないうちに、簡単に昼食をとり、まずは馬ノ鞍峰へと清徳から明神池への遊歩道に入った。足下に明神谷の深淵を聞きながら杉の植林帯を歩くという快適な遊歩道で、植林が切れた箇所にはコガタツツジの花が咲いていた。

地形図には破線も無く、ガイド図には明神池まで赤い破線が描かれているが、実際には丸太の階段や登道まで設置されている未だ明快な遊歩道だった。白い筋となって落ちる明神池が右下に見えたが、瞬間を節約してそのまま遊歩道を進んだ。

傾斜が一段とゆるんだ平坦地に出ると「かくし平」と書かれた標識が建ち、ベンチまでしつらえてある。明神谷源流の一つであるかくし平谷を渡って丸太階段を進ると、更に平坦地となり、簡単な石垣の上で「三之公川合

社」の石碑があった。側には「川上河指定文化財、史跡三之公御所跡」と書かれた新しい柱も建っている。

南北朝時代、後鳥羽天皇の孫にあたる尊義王(万寿寺宮)が、自ら三之公を治し、忠孝王(河野宮)の二王とともに関所をかまえた所と池元で伝えられるが、北朝の追手をかわすために、こんな山深い所に住まわれたのだろうか？

行宮址から再びかくし平谷を渡ると、石段の続く尊義王の墓所だった。明快な遊歩道はここまでで、もうこれから先に道は無い。さて、どこから馬ノ鞍峰に登ろうか？ 私達は地図をひいて地首相談となる。

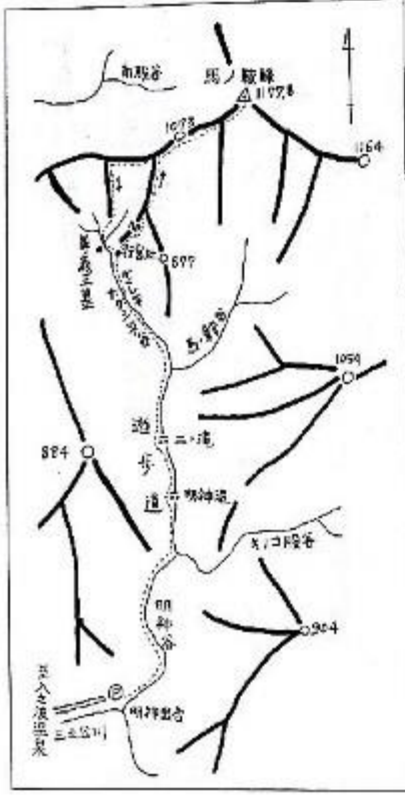
かくし平谷の源流は複雑に分岐しているから、ここはひとまず後戻りし、三之公行宮址付近の支尾根に取り付いて馬ノ鞍峰西方の1073の標高を自指すことになった。植林帯を少し登るとすぐに雑木帯となり、前方に岩壁がたちはだかる。岩壁は右かかると木の根や幹にすがりながら、よじるように急斜面を登った。雑木の枝を分け、かい潜りながら登っているうちに傾斜もゆるみ始め、踏み跡らしきものも現われた。どうやら馬ノ鞍峰への後線に乗ったらしく、1073の標高を回りて一点ついた。

点けたように明るかった。山でこんな花の盛りりに巡り会えるのは、本当に幸運なことだ。

シヤクナゲ帯を抜けると、ヒメシヤラの大きな木も湧く。トガシワラの原始林が続く。今までの標高がやや急な登りとなり、登りつめた所が馬ノ鞍峰の頂上だった。風雨にさらされた3等三角点塔、大きく地表に突き出している。頂上はブナの疎林に包まれ、その下には神味なサラサドウダンの花が咲いていた。馬ノ鞍峰は台高山脈中の一ピークだから、奈良と、三重県界に沿って細い縦走路がついている。展望には恵まれないのだが、雑木の枝を

透かして白嶺岳が見えた。

休憩しているうちにとうとう小雨が落ちて来た。ほんのわずかな頂上滞在だったが、本格的な雨になる前にと、私達は頂上を去る。元通りのルートを下るつもりだったが、登りの時の合流点を見失い、そのまま後線をとった。下りの地形判断は大変むづかしいが、地形図に950の等高線が記されている最低鞍部手前の、小さなコブから南へ派生する尾根を下った。高野槲が茂り、ここにもアケボノツツジとシヤクナゲの花が見られる。地形図からの判断よりもやや急な登りだったが、



世界の地図が揃う  
地図専門店  
**マップラン**

- 地形図●海外地図
- 古地図●道路地図
- ガイドブック

〒565-0801 大阪府吹上区吹上、ロイヤルホテル東  
TEL・FAX 03313496

南麓谷側は深く切れ落ちて、岩壁にへばりつくように生えている木には薄紅さの花が咲きつばい咲いている。あゝ久しぶりに巡り会えたアケボノツツジ(アカヤシ)だ。汚れなき女のやさしきにも似た美しい花だ。南麓谷側でた列岸の山肌が淡いピンク色に染まっているのは、あそこにもアケボノツツジが咲いているからだろう。そして山裾も濡らしているようだ。

昔は台高山の遊い巻を満喫して、再び破線を通る。太い木の根が縦横に這う後線には、なんとシヤクナゲの花が満開ではないか。アケボノツツジも豊富で、山は紅いほんほり

赤いテープが所どころに残されている所を見ると、馬ノ鞍峰の登路にはこのルートも使われているらしい。傾斜は杉の植林帯となり、やがて白い石が転がる河原に出、予定通り尊義王の墓所についた。

小雨はいっしょにか上がり、登歩道歩いて駐車場に戻り明日の山ノ神の頭に備えて二張りのテントを張った。明日の好天を願っていたが、夜半から本降りとなり翌日も雨だった。馬ノ鞍峰では花に恵まれたが、山はお天気次第だ。山ノ神の頭は次回に譲ろうと断念。入之渡温泉にのんびりと入浴して備腹するはめになってしまった。

平成3年4月27・28日歩く

- △コースタイム▽
- 明神出合駐車場(30分) 明神池分岐(30分)
  - 行宮址(1時間) 馬ノ鞍峰(1時間) 尊義王墓所(1時間) 明神出合駐車場
  - △地形図▽ 2万5千1:大和村木交差(地形図) マイカーが便利
- 明神池遊歩道はヒルが多い。山頂待機の場台は日中の赤布などを準備すること。

早春の黒河峠から

# 乗鞍岳稜線縦走

のりくらだけ

柴垣貞夫

野坂

乗鞍岳頂上にて



小休止

左に登れば三国山から赤坂山へのコース。今日は私にとつて初めてこのルート、右の山道に入つてゆく。この辺りはアナの原生林で広い斜面に黒色の滑らかな木肌をした太い幹が立ち並び、強い日の光をあげて銀色と濃いグリーンの配色が素晴らしい景観をつくりだしている。しばらくこの素敵なアナ林のなかの山腹道が続き、652ピークに出ると低いサ

湖西線近江津駅からタクシー2台に分乗。北マキノ白谷へ向かう。途中、林道早の群生地が整備された市内の公園にあるといふので、車を回して見学に立寄る。水芭蕉に似た紫の花を湿地帯のなか遊歩道をめぐってみることが出来る。花の盛りをすぎているがこゝんに群生して見られるところも珍しい。車に戻り北上する。マキノスキー場の入口を左にみて白谷口を右に入つてゆく。このあたりも開発が進み、ペンションや別荘の分譲地があちこちに見られるようになってきた。在来への道の分岐でタクシーを降ろす。

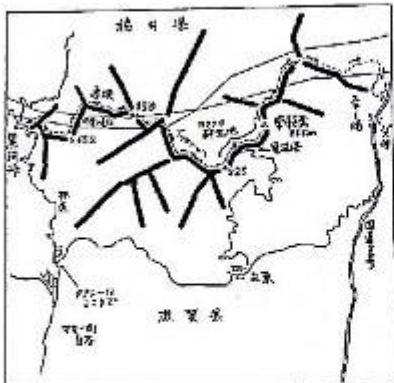
昨夜までの寒冷前線の通過にもなう荒れ模様。天気から一変して、空は徐々に晴れわたり、一点のしみもない快晴になってきた。

今日はいやでも密員の世話にならなくてはならないと覚悟してきたのに、晴れ男の面目躍如である。ここから黒河峠までは緩やかに林道を登つてゆく。右下に当解けの水を集めて流れる白谷を見下ろし、左右に見る山の斜面の雑木林も新芽を付けるのはまだ早く、灰色の幹と茶色の小枝のコントラストが新緑とは違った色彩のやわらかさを見せている。道端に顔をだしたフキノトウを摘みながら、久しぶりに顔をあわせた気のある仲間たちとおしゃべりに花を咲かせて歩くのは楽しい。ヘアピンの林道を、えいい面倒と直登をこころみ小枝をつかみ、藪を踏みつけて登りついでみれば苦と同じ、荒い息をしずめるのに苦勞した分くらびれもうけ。黒河峠につき

サにおおわれた明るい緩やかな風情道に変わる。稜線に出たとたん身を切るような冷たい風が吹きつけて体が飛びそうになる。晴天とはいへ寒冷前線通過の形勢が風の殆どで残っているのだらう。天徳線の鉄塔や、はりめぐらされた電線の風きり音がまるで飛行機の爆音のように耳を打つ。左にこれから登る8500ピークのピークがそびえる立ち、ルートが細く糸を引いたように続いて見えているのが見える。風突き八丁の急斜面、お喋りの声も途絶え、展望にも眼がゆかず、腰を手にあてて黙々と登る。途中の作業小屋で一息入れる。

8500ピークのピークに着いた。とたんに目を奪う大展望。右に琵琶湖の湖面が眼に入り、通か彼方に比良の山並み、三笠山や赤坂山の稜線の彼方には未だ雪をいたたい白里ヶ岳、三十三郎山が顔をのぞかせている。左に岩屋山や野坂岳が深い谷をへだてて附近にそびえ、はるかに敦賀の町の向こうに敦賀半島と日本海の青い海が眺められる素晴らしい大パノラマだ。ここからは東方の展望を得ることが出来ない。乗鞍岳での楽しみにとつておき出発する。

稜線は右に大きく回りこむ。ブナの原生林に変わって雑木の雑木林のなか不鮮明な踏み跡をたどる。所々日陰にはかなりの雪が残っていて時ならぬ雪合戦に興ずる。北に日本海、南に琵琶湖を望むこの稜線は、風当たりが強いのだらう。灌木もあまり成長せず、まるで鏡の鏡のよう。前後左右に曲がりくねっている。ここからカクタリ群生地だ。と数えられる。花の時期には足踏もなほいほどに咲き乱れるそうだが、まだ少し早く姿が見られないのが残念。それでもときどき双葉のなかに小さな新芽を見つけては、地面に這いつくばって歓声をあげている女性たちを見ると、咲かせられるものなら咲かせてあげたい気持ちになってくる。かわりにオレの小さくて白い可憐な花やシヨウジョウバ



カマのピンクの花が眼を惹きつけてくれる。展望は先に見えるササ平の断崖に立つアンテナ塔の下でと決められている。大分お腹も減つて声の出方が少なくなつてきた。着いたササ平は風の通り道、烈風が吹き荒れて、体がふつ飛びそう。息苦しい。建物の陰に飛びこむ。風の当たらない日なたの広場が確保できた。やれやれこれでゆつくり昼飯が食べられる。それにしてもアンテナに当たると風音は物凄く「飯冬期の荒れたアルプスの小屋にいる感じ」とベテランの目さん。全編並座になって、具がたつぷり入った酒の粕を利かせた粕汁、熱いうどんに十分なお酒。展望のひとときを過ぎすのには素晴らしい高が出来る。ここまですれば下山地の展望まで、時間は有り余るほどの余裕がある。大展望をおかずに加えて遠慮のない会話が飛びかう。

ゆつくりしすぎてすつかり重たくなってしまった腰を上げて出発。再び吹きさらしの風のなか乗鞍岳めざして前山のピークに向かう。風を防ぐものは何もない。岩の乗り越した隙子が二本架かっているところ。後続の風にバランスを崩し、飛ばされそうになる。ピークを越え少し登って乗鞍岳の頂上に出る。アツと驚くパノラマの大展望。今日は何回大

展覧の文字を繰り返したらいのか、とにか  
く素晴らしい景観である。東北や奥美濃の  
山々はいまだうすうす雪を被っているし、  
その向こうにそびえる熊鷹山は真の白雪奇  
山。あまりの展望の良さに思わず時間をくっ  
てしまふ。はるか奥の下に下山地、国境のス  
キー場や集落の屋根が見下ろせるが、下山道  
はここから北の方角に大きく迂回している。  
風に揺めつけられるのか、低い灌木のなかの  
道はかすかに踏み跡がある程度、杖は結び付  
けられたじニールの縞の紐を自然にする。  
先程から気になつていたので、このルー  
トの道が整備されすぎるとのよい道と、プ  
ッシュにおおわれた不鮮明な道が交互にでて  
くるのは何故か。答えは、よい道は送電線鉄  
塔の巡廻道、悪いほうの道は登山道。よい道  
のほうに化かされやすい。間違つて行くこ  
とんでもない鉄塔の方へ行つてしまふ道はプ  
ッシュン。もともと分岐までバックしなくては  
ならない。トツプは粉らわしいところでは立  
ち止まり、リーダーの指示を待つ。ぐんぐん  
下つて7899の標高の生い茂る平原にで  
る。傾きかけた西陽を待ひて、風になびく笹  
の波のなかに過ぎて、国境スキー場に向かっ  
てのジグザグの急降下。途中最後の急降の広  
場でもまたまたべり休憩。

16時30分土砂降のガレを走り降りて無  
事下山。バス停のある国境の村に着きま  
す。17時15分発のJRバスはガラ空き、  
最後まで他の乗客をなしの完全貸し切りみた  
い。18時12分近江今津発、お  
乗りと賑やかな笑いで京都へ。  
平成元年3月25日(土)

▲コースタイム  
1 長近江今津駅(タクシー)20分 林道入口(1  
時間30分) 黒河原(1時間30分) 8500m  
1ク(1時間30分) 五峰峠(20分) 乗鞍岳(1  
時間30分) 国境スキー場  
地形図 2万5千1:10000  
アドバンス

○当ルートは8500mピークから電線塔まで  
と、乗鞍岳頂上から次の鞍部までの道が不  
鮮明で、プッシュがある。初心者だけの登  
山は要注意。  
○コースは遊覧、福井国境遊覧線を忠実にた  
どる。尾根をはずさないように。  
○送電線塔遊覧路は分岐がくさんあり、ル  
ートを間違えようと思ふ返すのに苦労する。地  
図と地形をよく見きわめること。おかし  
と思つたら早く元の分岐に戻ること。

### 淡路島七福神巡拝と

## 釜口山

女の定義  
女は、可愛くなければ女じゃない。出しや  
張りで、お味りな女は嫌いだ。男女同権を真  
向から振りかざす女は、もう、女じゃない。  
激やかで、控え目な女は、日本の女性であ  
る。  
物に動じない、太っ腹で、無口な女は、私  
の女だ、と、思っている人が多い。  
クリン・ハイキング5年。リーダー必須課  
習も5年。そして、今回、私が選んだのは、  
各地の名所古跡巡りであった。題して、一等  
三角点と名所巡拝。  
第一回から欠かさず参加している刈さん。  
3回目の小笠原から、私の口をついて出た言  
葉が「おかあさん」以後、5半日の今日まで、

## 多摩 雪雄

「お前じゃない。山のおかあさんを呼んだの  
だ」と、いう、こともある。  
その頃さんが、熊鷹山に行きたい、で、計  
画したのに、熊鷹山で入院。手術。体調回復せ  
ず、丸一年、山行から遠ざかった。  
かくして、主市正吉不在のまま、実行された  
淡路島7日間。実に素晴らしい旅であった。  
雪足というのがあるが、雪原の弁く、三つ  
歩きも知れない。

## 淡路

淡路島七福神巡拝  
ハワイ・オアフ島のヨットハーバー周辺を  
凝縮したような、洲本郊外小路谷の造成地には  
近代的なホテル群が、ほどよく配置され  
ていて、南国的な街路樹の緑道は、2、3の  
橋で、本島と結ばれている。  
ホテルの裏側から眺める夜景と、朝の斜光  
に輝く海は連なり、一度は泊つて悔いの  
ない、淡路島の別天地である。  
今日は二曜日、半年前から体が取つておい  
てくれた5室10名、そんな訳で、おかあさん  
の不参加穴を、有閑夫人が埋めてくれた。  
一月から日月にかけて、日曜のみの9時40  
分、予約の七福神巡拝バスが、洲本バスター  
ミナルを出発する。  
祖神が、海を渡り回して引き上げた。天  
牙の先端から、降り落ちて出来た、日の本始  
めの島、淡路。その清りの基のみくらみが、  
東西約20kmもある西淡・南淡・由良にかけて  
であり、島内の最長距離60.8・3.3km、一等  
三角点の熊鷹山も、この線上にある。  
洲本から、東海岸を北上してたつぎの八幡寺  
は、広大な境内の堂々と、新しく新築つて、  
敷きつめた土砂利も滑らかに、緑竹園と大黒  
天は堂威広大である。本尊阿彌陀如来、藤原  
後醍醐天皇と伝えられる。



キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48%	赤札 ¥9,000
アリゾナ35%	¥6,800

GAIA JAPAN  
ヨリスポーツ  
〒543 大阪市天王寺区南瓦町4-73  
TEL06(772)7 2 3 1  
FAX.06(779)2191



特① 長  
パラレル、インナーフレーム付  
② スーパーウエストベルト付



二熊山山頂洲本城にて

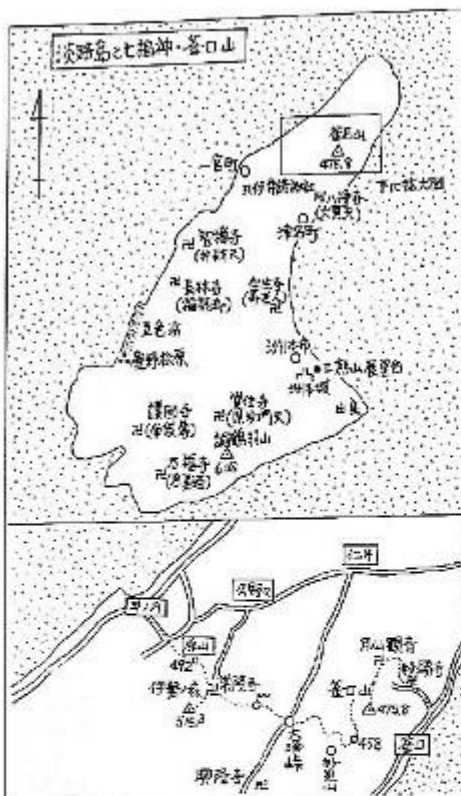
引き越すに備へ、花と瓦の産地で、土器屋と、いう字も残っているほどである。國に、因分寺と因分尼寺を設けた天平13年(741)、時の天皇聖武の命をうけて渡島した行基が、刻んだ、と伝えられる地蔵菩薩を本尊とする、津名町の宝生寺は寿老人で、美しく老める、を尊じて長寿橋を渡す。本堂の地蔵菩薩や、秘仏大日如来を蔵している。西海軍に出て、一宮の皇香に井財天を詣でる。御座の奥に、真の御姿である八咫宮御武將神の御前に、今様女神が美しい湯瀧を向け、この短禱寺で弁当が配られる。本尊は大日如來。裏山の幾百年を経た宝蓋印塔や、聖徳國師の没した観応2年(北朝1351)銘の、大般若石を蔵する。

郡志の長持寺は、行基によって七堂伽藍が創建され、十一面観音を本尊とする。亀に乗り鶴を抱いた大きな瓦焼きの桓彦守は、早逝である。菅原道真が九州に左遷の途路、この手に寄つて、遠か京の都を志す、と、誓われたので、以後、郡志と称する。延喜元年(901)の郡志とある、と、いう。

五色沢、豊野松原の景観を愛で、二原川に架かる瓦橋(橋柱に鬼瓦、橋桁は見事な唐瓦の集成)を渡る。瓦製造は、玉葱の生産と共に、日本第2位である。島内聖吉の賀集八幡に隣接する護国寺も、仲々の大寺で、恰幅のいい、等身大の瓦の布袋尊は、胸を現わに、相よかに本土並に座す。本尊大日如來。元久2年(1213)飛鳥最古の文書を現存する。また、江戸時代初期の版も豊富である。因道反對朝の統治には、悪業酒人神の方福守がある。江に天皇愛と、その母上麻山背の墓守僧の宿坊として開創。本尊大日如來。二原町社家の、八丈池近くの貫住寺が、巡拝最後の毘沙門天を本尊とし、聖徳太子の勅によって創建された古刹で、仲々の大寺である。以上アケ寺とも、高野山懸三示であり、各

寺院の住職による法話も、良い教訓として、身内に響き渡された。島には、二百の神社と、二百の寺院がある、と、され、少し歩けば、必ず社寺に参拝出来る。殊に八幡社が多い。これから探訪する名所旧跡や、山城を登つての先行で、島のアウトラインを把握出来て、以後の行程に、とても参考となった。洲本港には16時40分に到着し、タクシーで三熊山に登る。無料の天守閣からは、これから探訪する元山や、鷹野・妙見の連なりが、意外に大きく横張つて見え、大阪港に突き出した細く白い突堤が、平たい船を守つていて、この洲本城址の、古い石垣をめぐると暮れの際には、紅梅と白梅の咲き初める園を最後、愉しい小城を後にする。

飯島神社は、最近焼失した。と、いうので、大浜公園の松林と砂浜を抜けて、海岸通りの合資の宿へ歩を移した。伊勢ノ森から登り山、一番のバスで、伊勢神社に参拝する。古山に、淡路の多賀に坐すと、ある、一宮町多賀の里に、淡路一ノ宮として、広大な神域を併存に保っている。表参道から神池を右造太鼓橋を渡って、拝



殿で拝む。2本の木が成長して一体となった夫婦大楠は、樹齢850年。鶏、数羽が、人怖れせず、放し飼ひされている。天皇・皇后両陛下及び、昭和天皇が、それぞれ皇太子の頃、御参拝になり、昭和50年、常陸宮、司妃殿下の参拝を仰いで、くじらみ祭典を、全島に展開した節、参道沿路西側に166基の石燈籠を建立した。日本最古の神社に詣で、十ノ熊の宿を後に、斗ノ内で下車したのは8時50分。

今日は、暑ひとつない大快晴。占座する民家と、畑の間の簡易舗道を、ゆつくり登って行く。長閑な風光の中で、行き交う人の姿は、まるでない時刻である。原山十字路が登り口の御堂前を過ぎると、シノ竹と雑木林の小道となって、やや急な坂行登りで、石段が断続する。熊鷹4722の展望台で、ひと休みの後、普座寺は常住で、ドリンク類もあり、車道

も来ているので、この時も数人の参拝者が持参した御供物の、お徳分けに当たった。愛らしい孫娘を相手に、中老の品良い婦人が、お茶の接待をしてくれる。桓武天皇の皇太子早良親王が、延暦4年(785)藤原麻呂に開導して廃され、淡路流途出する。それより悲愴な延暦多数となり、親王の葬りを恐れて、同19年(790)崇徳天皇と追祭する。この年、草土山噴火する。尚、次の平城・解州面天皇も、桓武の子である。

同24年(805)崇徳天皇のために、淡路に寺を建て、御堂に遷す。即ち、常陸寺は、桓武の射野寺として、七堂伽藍を建立し、行基作十一面千手観音を本尊とする。普座宿坊兵火のため焼失したが、本尊は焼失を免かれ、現在に至っている。西の最西所に、515・3の三等三角点と奥ノ院があり、その途中のTV塔からの眺めがいい。この周辺は、伊勢ノ森という自然林であり、樹齢百乃至三百年のスタジイ、ヤマボウシ、アカガシ等の天然記念物がある。11時45分、大研堂を下って、北の久野々から南の御座寺に通じる橋上の砂利車道に出る。この道は、自然探訪路となっていて、30分ほどで、NITのバラホールを過ぎる。



# 飛驒の山山(国境編)

酒井 昭市著 四六判・二八〇〇円  
 (3月上旬刊)  
 1(例)意那山とその周辺の山山  
 北ア飛騨側冬季、笠ヶ岳六毛谷、白  
 山と周辺の山、阿寺山系の山峠等  
 「ヤン」山編発売中。二五〇〇円

# 京滋南部の山

内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円  
 (3月中旬刊)  
 木津川、宇治川、野洲川に囲まれ  
 た即米前後の山々は、古社寺も多  
 く、歴史をたずねての静かな山旅  
 が待っている。ガイド地図付。

ナカニシヤ出版

京都市左京区古田二本松町2  
 電話 075-751-1065 〒606

(平成2年2月中旬歩く)

大塔峠から、東道は、佐野の興隆寺に下っ  
 てゆき、妙見山へは、町野峠を直登行かれず、  
 北坂をぐるぐる巡って、妙見山から東に延び  
 る鞍が、北西に向きを変え、450mの計曲  
 線の頂点に出るまで、ゆっくりと、三層坂を  
 越えるしつかりした小道が通じている。

高柳子山、開運北波妙見大菩薩は、コンク  
 リート造りの神殿の中で、施錠されたサッシ  
 の外から拝する。前回の拝殿もコンクリート  
 造りで、長中子があるが、我々は、燈籠のあ  
 る前庭で、遅い昼食休憩をとる。トイレと井  
 戸もあるが、水は得られない。この地は5と  
 2が、

車も通る幅広い土道は、狭幅458mから  
 北へ向きを変えて、釜口山へ向かうが、西坂  
 を等高に巻いて、いつの間にか釜口山を通り  
 過ぎ、月ノ山観音に出ってしまった。

輪光を背負った、下山主の印相の残像は、  
 観音より如來に近い。此処も無住だが、広い  
 前庭に、一向を待たせて、SLの菅代田さん  
 を伴って、今、下って来た道を引き返す。

点ノ記通り、直行すれば、小広い道が山側  
 へ分れ登っているが、標識はない。すぐ奥に  
 突き当たってしまうが、左から迂回して、後  
 上の小枝や、バラ歌を払いながら行くと、二  
 つ目のツノの、天淵山の南の高みに着いた。  
 四個の保護石にきちんと守られて、475・  
 8の釜口山一帯三角角標石は、薄緑色の美し  
 い靨を現かせていたが、眺望は、まるで無か  
 った。

月ノ山観音から登り25分、下り20分で、符  
 ち点取れた一行を促して、妙見寺には17時に  
 着いた。此処の山門も立派だが、島内最古の  
 庭園は、一見の価値がある。

▲コースタイム▽略(文山を巻く  
 地形図) 2万5千11版図・巻紙

▲備考

淡路市七福神めぐりハッピーバス運行(1月  
 1日)まで毎週日曜日出発 瀬太バスター  
 ミナルも時刻分発 会費も、0000円

○申し込み・お問い合わせ

七福神巡り会事務局

07999(65) 00026

淡路交通社 07999(22) 08805

○七福神①大黒天(八幡寺)②舞老人(宝

生寺)③弁財天(船津寺)④福徳寺(長林寺)

⑤布袋尊(護国寺)⑥菅原酒(万福寺)⑦庫

沙門天(曹達寺)

## 連載

### 日本霊山紀行 1

# 富士山

3775・6

## 浅野孝一

日本山岳会の創立にあたって経済的な援助  
 をして呉れた人は高橋式で、その経緯による  
 「日本山岳会」は富士山について「富士山 登  
 河図富士・駿東ノ二部甲斐國 南郡留・西八代  
 一部三勢ル、富士郡大宮町大宮ヨリ七里三十  
 町、駿河郡須走村ヨリ五里十八町、南郡留  
 御地村子上吉田ヨリ六里餘ニシテ其山頂ニ登  
 ス、標高一萬二千四百六十七尺」と記し別巻  
 として六巻山、仙八山、時六知山等36もの山  
 名を記している。

富士山の成立に関しての伝説は孝安天皇の  
 御遷此山初めて出現すあり、孝安天皇5年  
 近江の熊野湖崩壊によって富士山が成立した  
 という。

富士山の文獻については種々あるが、案証

的な記述としての「甲斐國志」に教えられる  
 ものが多い。「甲斐國志」の成立について「一  
 すると、編纂者は甲斐國志が伊予守定経と  
 なっているが、実際の編纂に当たったのは内  
 藤源右衛門、森島瑞十郎、村松平左衛門、別  
 名秋山文政であった。富士山の関する郡誌  
 郡は谷村の藤原瑞十郎が主任となって文獻の  
 収集、調査の努力を払った。森島の人とな  
 りは他日詳細を発表するとして、「甲斐國志」  
 卷之三十五、山川部第十六ノ上、郡誌郡内  
 領の富士山の項は「富士山 郡ノ西南ニ當リ  
 南面ハ駿河ニ隔シ北面ハ本州ニ隔ス東南ハ大  
 行合(八合目) コリ京ノ方大井・小大井ノ  
 ンヨリ下リテ七ツツネソレヨリ天神峠へ見オ  
 ロシカク坂へ下ルコト百五町、又東南へ下ル

富士山火山口壁と剣ヶ峰



コト二丁三十七間ニシテ甲斐ノ国界タリ」と  
 その位置について記している。又登山路につ  
 いて「登山路ハ北ハ吉田口、南築走口・村山  
 口・大宮口ノ四道テリ其ノ内須走道ハ八合目  
 ニ至リテ吉田道下合又故ニ此処ヲ大行合ト云  
 フ村山道ハ大宮道ニ合ス故ニ頂上ニ至リテハ  
 唯南北ニ一路也南面ヲ築トシ北面ヲ東トスレド  
 モ古ヘヨリ諸國登山ノ旅人ハ北面ヨリ登ル者  
 多シ故ニ北麓ノ村吉田、川口ニ村二節殿ノ



大宮口山頂にて

者数三戸アリテ六七両月ノ間参詣ノ旅人ヲ留シ此ニテ案内者ヲヤトヒ之レニ旅具等ヲ持テシム」と述べており、登山する者は山笠装束と称する入山料を払った事が書かれてある。登山道には点々と宿所すべき小屋があった。室町期に始まった富士登山は江戸中期になると途途として富士行者があらわれ、富士講を組織して集団登山を行うようになった。山笠の恩師の家を定宿とし、それぞれの恩師や

山小屋に講中の看板をかいた。永徳元年(1558)長谷川左近が富士行者の第一世となり、二世日行、三世心など世襲したが、特に六世日行が有名であった。山笠には山中ノ海、明見ノ海、川口ノ海、西ノ海、精進ノ海、本栖ノ海、須戸ノ海のいわゆる富士八海があった。

私が初めて富士山に登ったのは18才の時だと記憶している。商業学校生徒であった。御殿場口から雨と霧の口を登り、須走口を下山したのではないかと思っているが、とにかくにも寒かったことだけが思い出た。昭和19年(1944)滝ノ原宿舎において毎日富士山を見つめながら新設教育を受けた。戦後幾度か冬富士へ登った。当時は夜の8時頃の新宿発の列車に乗り、大月で富士急の電車に乗り継ぎ、富士吉田駅から夜しずまった吉田の町を歩き、湯殿神社裏から大石茶屋、馬返し、佐藤小屋をすぎ七合目辺りで御来迎をひかえ、午前中に山頂を踏んだ。大急ぎで下山、夕刻の電車で帰宅した。元氣のよかった青年期のことだ、11月上旬の連休を利用しての山行であったが、今ではとてもでもないような山登りは出来ない。

夏富士も幾度か登ったが、いづれも吉田口

なので、昨年(1991)は表口から登ってみた。東京駅発7時56分普通電車に乗り、三島駅前から10時40分発のバスに乗った。富士大宮口の5合目のバス停近くは旧家乗車等の不法駐車や渋滞となったので、バスから降りて歩いた。

昨年の夏山は異常気象が続き、山ではさんざんな目であったが、富士山登山は快晴にめぐまれた。富士吉田口の登山道は他の登山道に比べてやや傾斜が強いような気がする。オンタアの点々と生えている間につけられた登山道に登って行く。登るにしたがって背後に三島の町なみ、駿河湾そして長大な伊豆半島が視野の中に入ってくる。夕刻山頂がすぐ頭上に見える8合目(2500)の山小屋に泊まった。夕食はカレーライス。久しぶりに山小屋でのカレーライスであった。

翌朝の御来迎は霧の中であった。ゆつくり小屋を出てから9合目付近で朝食をたべた。富士山を登るに雲の動きがあるが、見上げると山頂一帯は本日も快晴であった。山頂へ立つまで特記すべきことはないが、意外と手を使つて岩を登る地点が多かった。

山頂の浅間神社の左手に郵便局があった。しばらくその前で休んでからお鉢めぐりに出た。少し下った所に観明水があり右へ観明場



口が分れる。吉田口には多数の登山者でにぎわっていた。まず白山岳(3775.6m)に登った。東に丹沢山塊が見え、足下に広がる湖は山中湖であった。白山岳から剣ヶ峰への登山道はガケとなっていたので、一度金明水のある平地に下った。そこから見る火山壁には汚れた雪が残っていた。富士山の最高峰は3776.6mの剣ヶ峰で三角点の標高に富士山御殿場があり、御殿場台に立つと河口湖、西ノ湖、御殿場、御殿山塊、雲の動きの間から御殿場、八ヶ岳、南アルプスや北アルプスが見えてきた。

無事楽しくお鉢めぐりを終え観明水のかたわらから下山した。御殿場口はずっかりまがわっていて各合目の山小屋はくずれかかっているのが多かった。新7合目の小屋前から新6合目經由の登山道と分かれ右手の登山道に入る。この頃から霧となりさくさくと走り、6合目から宝永山へ登った。宝永山から再びのぼり下る。一帯はずっかり霧にまかれ平衡感覚を失いがちとなり、ただりたすら下った。登山道に沿って高い柱が立っていてそれが霧の日の目標となっている。時に霧の中から山頂に向かって見える登山者が現れる。右手にスキーリフトが見え、オ

ンタアの群生を見えるようになると平坦となり大石帯に着いてホッとす。小屋で洗面器いっぱい水を購入してよこれら顔や手を洗った。新5合目のバス停はすぐ下にあった。御殿場登山口の新5合目の標高は約1400m以上程に言うならば3合目の地点にあたる。富士吉田口、須走口、富士吉田口の5合目はそれぞれ2000m、御殿場口が登山者に敬遠されているのは、この600m程の高差にあるらしい。14時50分のバスに乗って御殿場へ、さらに松田駅で小田急電車に乗りかえ、明るいうちにも家に帰ることができた。

(平成3年8月12日、13日歩く)

- △登りタイム▽東京駅7:36-三島駅9:25
- △10-10新5合目14:15-新6合目14:35
- △6合目2604-15:00-新7合目15:45
- △7合目16:45-8合目3250-17:40(泊)
- △5-900合目16:05-16:30-9合目17:05
- △05-山頂8:00-8:10-白山岳8:00-9:20
- △20-1剣ヶ峰10:05-10:15-8合目11:05
- △11-20-17合目11:50-12:00-宝永山
- △12-35-大石帯13:50-14:30-新5合目
- △14-50-御殿場15:25

新ハイキング選書

【第1巻】 佐藤 節著  
**西上州の山と峠**  
 魅力ある山の多い西上州の山に、熱情を傾けた紀行文と案内の書。  
 ★上製本・B6判364頁 定価1648円(税込)  
 ★再版発売中!

【第2巻】 小林経雄 著  
**富士の見える山** 一甲斐五十山  
 富士の見えるヤマ山の50余のコースの詳細な山行記録。読み物としても面白い。正確なガイド記事で好評。  
 ★上製本・B5判335頁 定価1648円(税込)  
 ★三版発売中!

【第3巻】 佐藤 節著  
**漂泊の旅**  
 東北地方から上信越の山の紀行文集。よくこれだけの数の山を歩いたと驚くほど。内容豊富な力作の書。  
 ★上製本・B6判280頁326頁・地図39図 定価1648円(税込)  
 ★好評発売中!

【第6巻】再版出来! 松本雪枝 著  
**花の山を歩く**  
 その足跡の広い、山の花をたずねてのしみじみとした紀行文集。  
 ★上製本・B6判・約330頁 定価1650円(税込)  
 ★好評発売中!

【第7巻】 足立真一郎画伯 著  
**山旅素描**  
 山岳画家の第一人者である画伯の、はじめての百文集。  
 ★上製本・A5判208頁 定価1648円(税込)  
 ★増刷発売中!

【第9巻】安藤正毅/市川静子/多摩野雄/富田敏平/松本浩共著  
**一等三角点の名山100**  
 北海道から沖縄まで、全国100の一等三角点の山々の最新の紀行文内文集。詳細なガイド地図入り。  
 ★上製本・A5判336頁 定価1650円(税込)  
 ★品切れ

【第10巻】 沢 聰 著 画と文  
**四季の山**  
 春の山、夏の山、秋の山、冬の山と、季節感あふれる山の紀行文集で、著者は文筆の人であるが、また、挿入の数多くの面白く、じっくりと眺めていくと、味が伝わってきます。  
 地形図入り、コースタイム入りで、案内図としても役立つ。内容の山は一般向きの良い山が多い。  
 ★上製本・B6判344頁 定価1650円(税込)  
 ★最新刊・好評発売中!

【第11巻】 大石真人 著  
**いで湯浴泉記**  
 あまり知られていない温泉を扱った記事が多く、また、知られていない温泉についても、説明に裏づけして、すべての温泉の配置図を入れる。単なる温泉の案内書でなく、温泉歩きの良い経験から、話題も豊富に、読みものとしても楽しめる浴泉記になっています。  
 ★上製本・B6判320頁 定価1700円(税込)  
 ★最新刊・好評発売中!

静寂の秘峰

奥ノ迷峰(千石山)

松田敏男

高台

奥ノ迷峰、変わった名前である。名前の由来は、コンサイス日本山名辞典によると、彦岳(本紙別冊1号に紀行文掲載)と区別する為に、奥の名がつけられたようだ。台高山脈の頭にあたる池木原山より東に派生した尾根にあるのが彦岳で、北へ高見山に連なる岩稜上にあるのが奥ノ迷峰だ。  
 山頂より池木原山へ、歩いている人が少しはいるようだ、歩きづらそう。しかし、明神平から山頂までは、静かな山として朝台に踏み跡がしっかりと残っている。歩きやすさを求めるなら、季節を選ばないといけないだろう。道がおぼつかないと予想される山は、早春か晩秋が適当だ。葉が落ちていて見通しやすくなる。晩秋は日が短いから、

雪がないなら早春が最もいいだろう。そんな判断で、われわれの会は3月末に、奥ノ迷峰をめざすことにした。  
 登山口は大又である。初めて大又に交った時は、標原よりバスで入った。バスに乗ること1時間半、最奥の集落へやって来たという強い印象がある。下山後、バス停留所の菅野神社の境内で、ゆっくりバスの時間待ちをしながら、しみじみと旅情を味わった。しかし今は奥まで道端が舗装されていて、奥深さが薄れてしまった。以前は美しい大又川の渓谷を愛でながら、林道を歩いたものだが、ただ途中にある七瀬八巻へは、立派な橋がかけられて容易に滝見物ができるようになった。  
 登山道に入ると、自分の足音が聞こえ始める。

山頂より大峰山脈を望む



る。そして溪流の木々の匂いに心が洗われる。体が染まっていくような涼しさだ。小さい滝や瀬が続き、ちよっとした涼さを持った滝もある。滝が岩かどの下にあつてあまり見えず、首によつて大きい滝と思える落ち口を右へまわりこむと、急に川は澄近くにながつてきていて、やわらかい陽光に包まれたやさしい流れとなった。  
 ほどなく立派な木橋を右岸に渡ると、山小

●振替でのご注文は 発行所 新ハイキング社 振替東京3-146915 送料当社負担 東京都北区滝野川7-6-13 電(03)3915-8110



山頂より大台ヶ原を望む

窟がある。そこからしばらくして、シジヤクの登りが始まる。道は広いし、ゆっくりした勾配なので楽なものだ。途中で明神岳が前方に見え出す。流の左右に水がついていて、冬の名残がある。水をつけると幅広く見えて一層立派だ。その上部で、最初の山行の時は鹿に出会った。霧の深い日だった。道の曲がり角で、突然の出来事だった。驚いたのは鹿も同じだ。身を縮めて逃げるとき、一層こ

けながら樹林の中に姿を消した。明神平に上がると、草原が広がっている。昔、スキー場だったという。今は東屋があるが、温かいシーツは、たくさん人が来るのだろうか。誰もいない3月の今日は、ぼつんとひとつある東屋が、一層寒々とした風情をつくっている。北側は緩やかな雪のスロープで、水無山が大きく盛り上がっている。反対側の行く手右には、双巨跡の駒岳(標高1100m)もあるが、が魅力的に望まれる。駒岳の山頂付近は、苔むした岩と原始性の深い樹林がしつとりと溶け合っていて、心が静かに深まっていくような魅力に満ちた山頂だ。笹を広く刈り取った道を登りつめて、一帯への分岐、三ツ塚に出る。この分岐から主稜線は東向きを走らせ下っている。登り返せば明神岳だ。本日のコースの最高峰である明神岳は、ただの通過点といった感じが、穂高明神の小駒がまつられているという話だが、見つけられなかった。しかし左の雑木林の標高面には、雪が残り、前える若葉とのコントラストが滑らかに美しく、心が洗われる。明神岳頂上を10分程度歩いた所から、その雑木林の中を東方へ目印が続いている。それはこのあたりの奥峰の樹林帯への道だ。次はこの道を行こう。ふっと行きたくなくなってしまっ

だった。このあたりまで来ると、道はしっかりしているものの、通行車の多い峠道を歩いてしまったりした。獣の生活の場を訪問している気分だった。樹林の中の静かな道に登り返し、その次のピークがめますます迷峰だ。頂上は、それ自体の雰囲気はひととつたが、大峰山脈の雰囲気はさびしい。最も近い大



善堂は、三角形に尖って左へ二峰三峰の大カラインで、峠を越えて区切っている。やや左奥に重なって駒山八経ヶ岳が大きく盛

り上がっている。その左が釈迦ヶ岳、いちばん右が山上ヶ岳だ。北面が見えるから、大峰山脈は雪が白く光っている。いい眺めだ。大峰山脈からいっぺん眺めになると、山の表情がひとつひとつ独立して連う。山脈に対して高橋から眺める位置は、山の形が間のびしやうだが、北東の位置から少し見上げる角度で望むこの関係は、いろんな条件で最もポイントが高いのではなからうか。

天気の良い日なら、登る山自体に魅力が薄くても、まわりの山々を見る角度とか季節とかを考慮して山行計画を立てることが、充実した山行の大きな要素になるだろう。話は飛躍するが、正月休みの済んだ1月4日、この日が快晴なら、静かでもしかも最高の眺め日和だ。工場などから出る煙が止まった数日間後なので、空気は澄んでいるのだろう。比良の奥平ヶ岳からでも、白山や御嶽は言うに及ばず、北アルプスの穂高や穂高、南アルプスの赤石岳などが望める。足繁く通っている山でも、新鮮な印象を与えてくれる日もあるのだ。

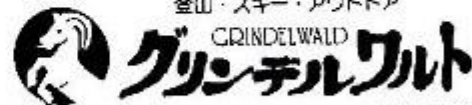
奥ノ迷峰の山頂を降り、往路に戻る。コブがいくつもある道だから、同じ数だけまた登らなくてはならない。下山と言えども、明神平まではほぼ同じ時間がかかる。われわれ

地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア



営業時間 AM10:30~PM 8:00 毎月月曜日定休

三重県四日市市深沢町13-3

TEL 0593-54-0627

のパーテイーは、山頂で、アルコールとグルメメニュー、そしてレギュラーコーヒーといういつものパターンを降んだので、1時間半も長居してしまっ。夕刻近い明神平は、一層寂しくなっていた。海にも淡路にも、ゆっくりに心を傾ける程の時間は使われていなかった。(平成元年3月26日歩く)

▲コースタイム▼大又(2時間) 車止(1時間40分) 明神平(40分) 明神岳(30分) 笹ヶ峰(50分) 奥ノ迷峰(50分) 笹ヶ峰(30分) 明神岳(30分) 明神平(1時間) 車止(1時間40分) 大又  
▲地形図▼2万5千1:10,000  
▲登山社▼「高見山・谷見峠」  
▲バス問い合わせ  
奈良交通バス0742-2222 11771(標高より岳田研乗り換えで大又へ)



# 野外塾

●フキノトウ研究



二名良日

小昔日を思わせる日差しに、春の近すきを感ぜながら、谷あいの薄曇りや時おり吹き抜ける風の冷たさに冬の気配りを改めて思い知る、今日この頃の山行です。

また山菜の季節にはほど遠い山野の大地ですが、よく目を察らして観察すると、必ず発見できる一番早い緑がフキノトウです。

今回はこのフキノトウについていろいろと研究してみましょう。

＜文楽＞フキノトウは初夏の季節ですが、「山の下の麓のたうろつを覗き、あら土の匂ひ高し。その雪の上に」(百景)

の歌にもある通り、フキノトウは初夏のそれとて、雪の下にも芽吹く強さを秘めています。＜サバイバル＞①雪の下からも採集できる非常食として貴重。②道の草のあて字じりり、山野の身近かな場所を生え、取り易い。③誰かがよく知っており、識別しやすい日本を代表する食野草……として極めて有用です。

＜フォークロア＞「昔懐けの大地からフキノトウのように生えるので、その名がつけられたといわれます。可愛い形から、藤玉・苔っ子・苔坊主・苔二郎・藤藤・藤坊主……などと愛称されています。秋田の県花で、愛称のアキクブキは2層もの高さになり、その下に隠れた小人先住民コロボツクルが住んだとの伝説もあり、

草や杖にも使われます。

＜ウツキング＞フキノトウに産毛があるのを知っていますか？。産毛は刃が25センチ止まりと短く、黄白色の両性花序になります。大抵部分は白色の冠毛が1センチほどにもなる産毛状で、産毛をつけるので、識別してみましょう。

＜顔方草＞中国で咳止めに使われ、数々に似るといふことで「和カントウ花」と呼ばれるのは、早春の球状フキノトウを乾燥にしたもので、縁取に用います。

＜クツキング＞若一番の香気として親しまれているフキノトウ料理を紹介しましょう。

「テンブラ」包菜を一口パックン揚げにしてニガ味を飛ばす。水切りをしっかりしませよ。

「サラダ」姿のほど良い大ききものを紫色しなないように塩茹でし、マヨネーズで食べたリ「コマ和え」や「酢の物」にもできます。

「フキミン」新芽をミシン切りにし、塩湯でアク抜きし、ミソと練り合わす。フキ葉に包んで焼くと、更に香ばしさが増します。

「ミソヤキ」玉葉の丸焼きにミソをつけて食す。ニガ味が強烈なので、甘酢ミソなどで工夫しましょう。

「ミンシン」アク抜きしたものを「汗の塩」にします。刻んで「飯い物」の薬味に利用。

フキノトウより時期が遅れますが、フキノトウのものや葉や莖や根茎の利用や、フキノトウ類などについても考察してみましよう。

「アタ抜き」市販のは重曹などの化学薬品を使っていますが、自然の灰汁法が簡単です。石割した川に流して灰を洗います。

「皮むき」葉の皮や筋にアクが多いので、茹でて下方より爪で皮をむきますが、爪や指先が黒くなるので注意しましょう。

「葉むき」おにぎりを包むのにちょうどよい大きき葉は天然のラップに。

「灰汁湯」自然のトナレットペーパーとして用いられてきた証拠。古酒造とも関連。

「湯割り」紙や布への菌殺形の刷り染め。

「葉蒸らす煮」ビタミンA・B・D・Cなどの多い野菜を細く刻み、塩湯でサッとアク抜きをとり、醤油・味噌・味醂を加えます。

「さらさら湯」一日干して茹でたアク抜きし、皮をむき、塩・醤油・砂糖を煮つけ、鷹辛子を効かす。塩もみする「青煮」や汁煮の「出汁煮」も同様の手り方です。

「葉の佃煮」アク抜きしたフキノトウを、お湯は皮をとりなくともOK。3センチ位に切り、酒・醤油・砂糖を加えて煮、甲子酢・切り昆布・干椎茸・山椒などを加え、味醂で仕上げます。

「葉の粕漬」太い肉質の良いものを選んでア

ク抜き、皮をむいて、奈良漬の要領で酒粕に漬けます。味噌漬・細り漬も同様です。

「水落のおでん」葉摘みで柔らかく色・香が良い大根の水落をアク抜きして皮をむき、10センチに切っておでんのネタにします。

「藤田菜」おでん種と同じように仕上げたものに、田舎味噌をかけて出来上がり。

「愛知酒の酒蒸し」市場性の良さを栽培者の王冠となった愛知酒。他に赤飯なども栽培される。の産地をかけた産物の正産地。

「秋田藩の砂糖漬」最良の秋田藩は使われて料理には敬遠されがちですが、新芽を文旦の砂糖漬けのように煮込みます。河内名物の野菜「五平」(五平菜)と同じ発想。

「石巻の油炒め」海産性で潮風や乾燥に強いツワブキの新芽を皮をむかずアク抜きし、3センチにブツ切りにして油炒めにし、醤油・砂糖を味付けします。

「石巻生花」黄色い力強いツワブキの花は、花の少ない冬に咲き、庭園や床の間を飾ります。九州の1月にのみなるツワブキは、正月を越してもまだ咲いていますし、西表や石垣の琉球石原は一年中花を咲かせます。

「葉搾菜」根をすりつぶしたり叩きつぶしたものを患部にぬると、打ち身、腫れ、できもの、喉の腫れに効くといわれています。

**予告**

▽奈良フィールドアスレチックで、「アウトドアースクール」&「アウトドアークラブ」がスタート!!

今春四月より、奈良県リムランドそばの奈良フィールドアスレチックのキャンパスで、得意の本格的なアウトドアースクール&クラブが開設する。校長は、このアウトドア・ライフ入門「野外塾」を担当する二名良日氏。

アウトドアに出かけた時に即使える技術や、気持ちの良い野外で、初心者やファミリーにもくわがるように実習する。楽しくておもしろくなるスクールと、身につけた技能を野外現場で実用してみるフィールド・ウォッチングを中心としたクラブを準備中。プログラムは草花遊び・山菜料理・植物観察・図鑑法・ Tent キャンプ法・防災サバイバル・木の果遊び・くんせい作り・土器作り・フナ林ウォッチング・ケイビング・川下り・山登り・キノコ狩り・炭焼き……等を予定。

御期待下さい。

エリア別徹底研究(概観)

### 京都北山 (三) 雲ヶ畑周辺

## 陽春の北山核心部を歩く

北川 裕久

薬師峠の六地藏



残雪期から春の山吹を感じること季節は、四季を通じ最も山の美しさを感ずる時季である。そのような季節に北山の核心部ともいえる雲ヶ畑周辺を今回はコース紹介していこう。

雲ヶ畑周辺には、ファミリー向きから一般向きのコースが集中し、それらの山道を組み合わせる事によって無数のパリエーションコースを構築する事ができる。その中で最もポピュラーなコースを選んでみた。

雲ヶ畑といえは平安京治営のために御用材を伐り出した地で、明治維新まで徳川御所の御料地であった。明治39年から大正12年まで京都御霊場とされ、世神が祀られた土地である。また、鴨川の源流にあたり、中津川、

中畑・出谷の3町からなる。

都の水源地であるこの水は、御所の飲料水として用いられるため、近年まで死者はこの地に葬られず神を越えて真子方面で火葬にしたという。今でも持越峠の旧道口には、死者と最後のお別れをした。お別れ地蔵が残り、棺を置いた石の台座までがもの悲しさを語る。

時から真宮方面へ少し下った所に火葬場があり、3才までの幼児は火葬にするのはかわいそうだというので土葬にしたと聞く。

その小さな土葬墓や金鐘の残骸が今も真宮の谷を占める山中に残されている。

また、雲ヶ畑周辺には文徳天皇の第一皇子である惟徳親王にまつわる伝説が数多く残さ

れている。中でも標高895・910の投敵ヶ岳には、皇位継承争いに敗れ、不遇の身を小野の里に寄せ、日々、投敵ヶ岳に投敵を組んで皇位の回復を祈られたという。  
中畑にある薬師寺は親王がここで落首され、居所の持越峠を真三郎の寺に改め、失意の心を大般若経六白巻の真字で紛らされたという。惟徳親王が寺堂として残されている。パスの終点「正石屋敷」の北側には惟徳神社があり、酒殿・藤原社と呼ばれている。  
親王が寵愛した夕ガカの鹿馬をここに埋めた

ためと伝えられている。若狭谷を西へ、堀入ると志願院がある。杉の巨木に覆われて、巨岩・奇石・洞窟・飛瀑があり、その貴族の行者によって開かれた修業道場であったと伝えられる。木堂裏から岩屋山にかけて八十八ヶ所めぐりの行場となっている。1時間程のミニコースで二休ずつの地蔵が八十八ヶ所

に点在する。4月口頃から5月下旬には全山シャクナゲに覆われるため、一度は立ち寄ってみたい時季である。

雲ヶ畑を取り巻くコースとして、小野郷・杉坂・氷室方面からのパリエーションルートが考えられる。小野郷方面からは、岩谷谷いを岩谷峠から半田高山へ登るルートがある

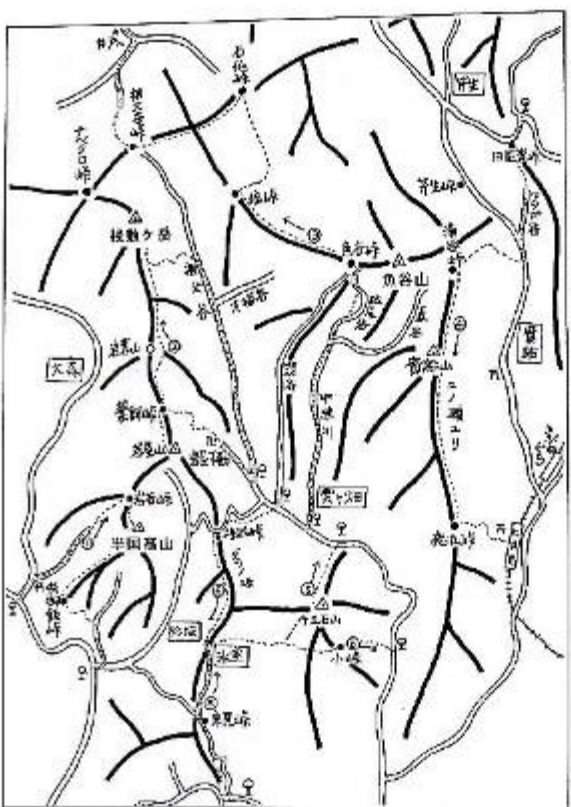
し、時を真宮へ越せば持越峠から雲ヶ畑方面へ通じている。又、岩谷峠から持越峠を経由して、薬師峠には岩屋山へ登ることもできる。杉坂方面からは真宮川沿いに北上し持越峠を越せば雲ヶ畑方面へ入ることができ、小野・谷川沿いに歩けば氷室方面へ通じている。

道中はどちらも北山杉の美しい溪流沿いの道である。氷室は、八方を山に囲まれた人口30名にも満たない山里で、平安時代から旧暦6月15日にこの地に貯蔵された水を宮中へ献上する習わしがあり、大正15年まで続けられたという。水は冬の間に池に張ったものを切り出して、深さをいれ、広さを母殿ぐらいの穴に木の枝を葉を敷きつけて板を張り、その上に氷をのせて再び板と枝葉で覆い、土を被せて氷解を防いだ。今も池と集落の四方に氷室跡が残されているし、氷室神社の箱の御紋が皇室との深い関係を示している。

氷室の北には、持越峠へ通じるタラノ坂と呼ばれる美しい尾根道がある。

陽春の一日、マンサクやタムシバの花を葉しめ、雲ヶ畑周辺の時を歩くのもいいだろう。熊野大社に伝承するおびつ石伝や山里の神社史跡を訪ねてみるのもいいだろう。

(調査) 平成3年9月(11月)



エリア別徹底研究  
雲ヶ畑周辺の山①

北山杉の山  
半国高山

京都北山



このコースは終始、北山杉の美しさが味わえる一般のコースである。

「JRバス」「小野道」を後に、落葉神社の横から岩谷林道に入る。林道終点から杉林の谷沿いを大岩の張り出した橋を渡って右の谷へ入ってゆく。やがて灌木帯のつづら折れを登ると道は左へ廻り込んで谷の頭端を渡る。

このあたり、実に春先は爽快な所々、ウツイスの朝りが聞こえてくる。緩やかな斜面の坂を登れば岩谷峠に着く。昨から半国高山への道は明確についている。樹と灌木林を左右に分ける南の尾根は急峻で、二つめのピークの手前右側に風化した立柱れ木を見る。この付近からは灌木帯の道が山頂まで続いている。

山頂は東側が松を残して谷底まで茂草されていて、比叡山方面の展望が広がる。尾路は西南の尾根を下る。灌木帯の急坂で、西側が開ける。ヤマツツジの咲く頃には特に訪れて頂きたい。樹林の小さなピークを越えんと西側の展望を見ながら急坂を下る。樹林の中、すぐに大谷の盆地に着く。ここを過ぎると20分程度でピーク534に到着。振り返ると半国高山が尖峰の美しい姿を見せている。

付近にはタムシバの花が目を惹きつけてくれるだろう。これから先、道は少し不明瞭な所もあるが笹の下に踏み跡が残っている。登

り下りをくり返すと道は二分する。右へ少し下って、山腹を巻くと再び尾根に乗る。背丈ほどの笹が茂る松林を抜けてと道も緩やかになり、東側が開ける。谷底まで道のスロープが緩き、まるでグリーンヒルのような山になる。西側には小野道付の集落から周山街道の笹時方面が開け、東側は一面に北山杉の人工美が展開する。

20分ばかり下ると供養殿跡である。樹の大木の根元に地蔵尊が安置され、その西、この時は清澤川の断崖を避けて最前陣跡で杉坂と小野道をつなぐ旧街道の跡である。時の名は天皇が召し上がると供養殿、つまり賣納米を山国から安時を懸けてこの峠を越え都へ納めたことから命名された。杉坂への下りは終始、北山杉の中で整然とした美林で、あの山頂成の「玉座」の一帯が目に浮かぶようである。

杉坂から車道と合流し、パイパスを周山街道へ出ると「杉坂口」である。北山杉の谷へコースタイム▼

小野道バス停(1時間40分) 岩谷峠(30分) 半国高山(40分) 大谷盆地(50分) 供養殿跡(40分) 杉坂口バス停

《地形図》 2万5千11周山  
《交通機関》 京都駅よりJRバス「周山」行

エリア別徹底研究

雲ヶ畑周辺の山②

惟喬親王ゆかりの山  
棧敷ヶ岳

京都北山



どうしてこの山に人気があるのか……。惟喬親王にまつわる伝説や伝承がハイカーを引きつけてしまうのである。

「岩屋橋」から惟喬神社の前を岩屋谷に沿って車道を30分も歩けば岩屋不動に着く。志明院横の山道に入り、緩やかな流れに沿って灌木帯へ登る。大岩の所で右の谷へ入り、笹が茂るとと突脚時に着く。昔には六地藏尊があり、南の尾根道を受ければ岩屋山。棧敷ヶ岳へは北東の尾根道を通る。すぐ江戸時代の首むした10基程の墓地を見る。この棧敷ヶ岳への尾根道を「尾根道」と呼び、雲ヶ畑から尾根道を通って祖父谷峠から山国、井戸へ抜ける道であった。尾根の西側から灌木帯に入ると道は二分する。右は西谷への道で、左

を取って緩やかな山腹の巻く道を通む。松の点在する尾根を越すと東側の山腹を巻く。天狗杉方面が展開する。岩屋山が目前に迫り、東側の山腹を波状に巻いてゆく。やがて風化木の点在する幼杉の植林帯からは林間に比叡山や京都市街が見える。反対側の東側を巻いて灌木帯に入ると、道は尾根に乗る。送電鉄塔の下に出る。「種ながめの岩」は送電鉄塔の少し手前にある赤褐色の岩がそれであると聞いたが真否の程はわからない。送電鉄塔から祖父谷へ下っている道は尾路にとる関電の巡

視線である。

北に見える棧敷ヶ岳へは世の下生

えする灌木帯を一度下って笹の入り口を登れば895.9の山頂に着く。尾根、山頂も整備されたが、以前は笹の生い茂る小さな山頂で三角点さえも笹に埋もれていた。

山国にある笹は、皇位継承争いに敗れ、環京の思いをこの山で晴らされた時、杖を捨てに立てられたのが根づいて「種ながめ」になつたという伝説によるものである。

三び送電鉄塔の所まで引き返し、祖父谷へ下る。30分くらいで祖父谷の林道と出合い、ここからは林道を岩屋橋までのんびり歩いて1時間30分くらいである。

《コースタイム》  
岩屋橋バス停(30分) 岩屋不動(50分) 養師峠(岩屋山頂)30分・1時間30分 送電鉄塔下(15分) 棧敷ヶ岳(10分) 送電鉄塔下(30分) 祖父谷林道出合(1時間30分) 岩屋橋跡(地形図) 2万5千11周山

《交通機関》 出町瀬駅より京都バス「岩屋橋」行



# 山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

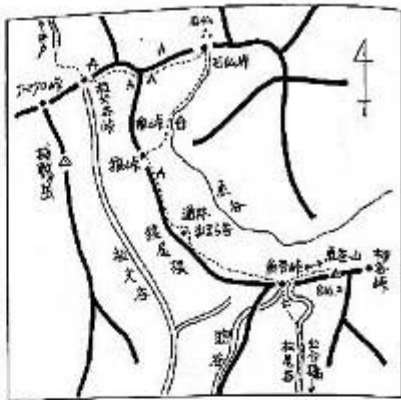
- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1 北アルプス縦断   | 34 那須山        |
| 2 白馬谷       | 35 船山・出羽三山    |
| 3 磐梯湖・黒部湖   | 36 奥山         |
| 4 船・立山      | 37 奥平の山・奥山    |
| 5 上高地・信濃湖   | 38 奥平・平池峠     |
| 6 黒部高原      | 39 八ヶ岳・奥山・奥山  |
| 7 磐梯        | 40 十和田湖・奥山・奥山 |
| 8 磐梯湖・奥山・奥山 | 41 ニセコ・羊蹄山    |
| 9 木曽駒・奥山    | 42 大雪山・十勝岳    |
| 10 甲斐駒・奥山   | 43 白川         |
| 11 碓氷・奥山・奥山 | 44 奥山・奥山・奥山   |
| 12 碓氷・奥山    | 45 奥山・奥山・奥山   |
| 13 志賀高原・奥山  | 46 北山系        |
| 14 磐梯湖・奥山   | 47 京都北山1      |
| 15 而上科・奥山   | 48 京都北山2      |
| 16 美ヶ原・奥山   | 49 京都西山       |
| 17 ハケ峠・奥山   | 50 北摂の山々      |
| 18 富士・奥山五湖  | 51 六甲・奥山・奥山   |
| 19 箱根       | 52 葛城高原・二上山   |
| 20 伊豆       | 53 金剛山・奥山     |
| 21 丹沢       | 54 北山系        |
| 22 奥山・奥山    | 55 奥山         |
| 23 大菩薩峠     | 56 大菩薩峠       |
| 24 奥山       | 57 大菩薩峠・奥山    |
| 25 奥山・奥山    | 58 奥山・奥山      |
| 26 奥山・奥山    | 59 奥山・奥山      |
| 27 奥山・奥山    | 60 奥山・奥山      |
| 28 奥山・奥山    | 61 奥山・奥山      |
| 29 奥山・奥山    | 62 奥山         |
| 30 奥山       | 63 奥山         |
| 31 奥山・奥山    | 64 奥山・奥山      |
| 32 奥山・奥山    | 65 奥山・奥山      |
| 33 奥山・奥山・奥山 | 66 奥山・奥山      |

【※印は新仕様の地図です】

※昭文社の「山と高原地図」は年間版として毎年更新発行されます。この山行の趣になるべく最新版をご利用くださいませうお願いいたします。  
 ※昭文社の「山と高原地図」へのご賛同・ご意見がございましたら、本社編集課「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。またお情報も教えてくださいませう。

**昭文社**

本社 東京都千代田区九段3-4-2-11 電話03(3282)2141(代) 〒102  
 支社 大阪府大阪市西中區6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532  
 営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡



乗る。ここに天然の百杉が残されている。時から約30分、第4の鉄塔に着く。前方には数ヶ所の峠が見え、樹林を下ると根元谷峠に着く。時には5本の杉杉があったが一本は落雷で失われ朽ちた根元が残るだけである。峠の百杉は、北山一と思われ、井戸側を下ると井から約30分、所に「念仏六百萬返」の彫られた石碑とその前に首のない小さな地蔵がある。その前を通ると流木帯のユリ道に変わる。やがて杉林のつづら折れを下ると谷沿いの道となり林道の終点に合流。林道は、やがてT字路になり、左へ橋を渡って少し下ると道が大きくカーブし、ジョーラ

ク峠への林道を分岐する。さらに井戸根谷の旧道(廃道)と合流し、この先で右仏峠からのイモジ谷林道と合流。ここからは車道をゆつくり歩いて「Rバス」「井戸」のバス停まで約30分以内である。(北山捲入)ハコースタイム) 出合橋バス停(30分)松尾谷・直谷合合(1時間20分)魚谷峠(1時間)猿峠(1時間)石仏峠(40分)相父谷峠(1時間)イモジ谷(40分)井戸バス停

【地図】2万3千1周山・上吉川

北山の定番コースである有名な時を溶かし、雲ヶ畑から京北町止戸へ抜けるスペシャルコースである。京都バス「山合橋」から中津川沿いの林道を30分も歩けば直谷と松尾谷の合流に着く。さらに松尾谷の林道を進むと所々に旧道が残っているお生え込みがきつく歩きづらいので林道を歩く方が早いだろう。途中、右側に屋根小屋があり、その少し先で左側の山腹へ登る小道がある。これを登ると惣谷からの林道へ出るが、松尾谷の旧道を取る方が魚谷峠へは近道である。さらに林道を回り歩くと、右へカーブする地点に道標があり、左の谷沿いへ入ると杉林の間に松尾谷唯一の滝がある。滝の上部で再び林道に出る。しばらく林道を歩くと林道は谷を離れて

右へ大きくカーブする。ここで左の谷沿いの旧道へ入り、登りつめた所が魚谷峠である。魚谷峠は、松尾谷と惣谷の林道の頂点であり、昔の面影は何もなくなくなってしまった。この林道は地元の人達所有者が茶畑に転換してハイカーのために林道を閉鎖しているらしいが、昔の山道はそのままだと推測して残してほしいものである。京都市の開拓でない事は確かである。さて、魚谷山を往復する。最初は急な登りであるが20分程で魚谷山に着く。3等三角点があり、展望はないが静かで落ち着いた山頂である。魚谷峠へ戻り、北西の尾根に取りつく。すぐに四ツ辻と呼ばれる分岐点があり、そのまま北へ。猿ヶ畑へ進む。ネミヤツが点在する樺木帯の尾根まで樹木の美しさは四季折々に深い味わいがある。樹林を過ぎると道の中央に倒れた杉があり、20分程前方で右へU字型の連絡。まはら谷と呼ばれる四地、右(北側)の斜面を登り、再び尾根に取りつく。途中、右へ二箇所程、道を分岐するがテープの目印や道標もあるので迷う事はない。美しい樺木帯の道が30分程続くと杉や檜の樹林が現われ、鉄塔帯の道を緩やかな杉林のユリ道を下ると猿峠である。魚谷へは右へ少し下ると道は一般に分かれ

どちらも魚谷へ通じるが左の巻き道の方が早い。魚谷を登ると小屋があり、その先から杉林に入る。緩やかに流れる魚谷の源流は、真に北山そのものである。道標に従い、笹の茂る道を登りつめると石仏峠である。北へ20分下った杉杉の根元に2体の石仏が安置されている。この所は出雲屋が安住の地を求めて美濃移動のとき建てたといふ伝説が残されている。峠から辰丹園蔵の根を西へ進む。カニデヤミスナラの広葉樹に囲まれた道で春にはクムシバやマンサクの花、そしてミツバツツジの美しい場所である。最初の鉄塔付近からは、北方の展望が良く丹波山地の山並みが遠く若丹園蔵まで続いている。第3の鉄塔手前から道は右へ下り、再び尾根に

エリア別徹底研究  
 雲ヶ畑周辺の山③  
 古き良き峠を訪ねて  
**北山の峠めぐり**  
 京都北山

右へ大きくカーブする。ここで左の谷沿いの旧道へ入り、登りつめた所が魚谷峠である。魚谷峠は、松尾谷と惣谷の林道の頂点であり、昔の面影は何もなくなくなってしまった。この林道は地元の人達所有者が茶畑に転換してハイカーのために林道を閉鎖しているらしいが、昔の山道はそのままだと推測して残してほしいものである。京都市の開拓でない事は確かである。さて、魚谷山を往復する。最初は急な登りであるが20分程で魚谷山に着く。3等三角点があり、展望はないが静かで落ち着いた山頂である。魚谷峠へ戻り、北西の尾根に取りつく。すぐに四ツ辻と呼ばれる分岐点があり、そのまま北へ。猿ヶ畑へ進む。ネミヤツが点在する樺木帯の尾根まで樹木の美しさは四季折々に深い味わいがある。樹林を過ぎると道の中央に倒れた杉があり、20分程前方で右へU字型の連絡。まはら谷と呼ばれる四地、右(北側)の斜面を登り、再び尾根に取りつく。途中、右へ二箇所程、道を分岐するがテープの目印や道標もあるので迷う事はない。美しい樺木帯の道が30分程続くと杉や檜の樹林が現われ、鉄塔帯の道を緩やかな杉林のユリ道を下ると猿峠である。魚谷へは右へ少し下ると道は一般に分かれ



相父谷峠



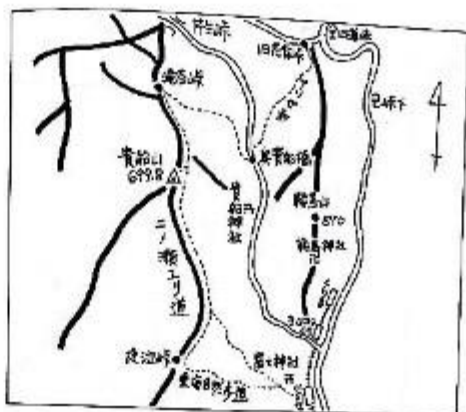
エリア別徹底研究

雲ヶ畑周辺の山④

檜松の遊歩道

二ノ瀬ユリ

京都北山



起点は「峠」でも「旧道橋」でもよいが...

さて、南に振り返り出す長大な路根に取りつく...

雲ヶ畑方面へ通じている。

途中、雲ヶ畑山への道標があり、往復30分ぐ...

- コースタイム、巨道橋れバス停(15分)...

エリア別徹底研究

雲ヶ畑周辺の山⑤

京の都を一望できるコース

長坂越と十三石山

京都北山



市バス「観光陣地」で下車、西へ向かう...

市バス「観光陣地」で下車、西へ向かう...

まで続いている。峠名の由来は、平安京の造...

雲ヶ畑周辺の山⑥

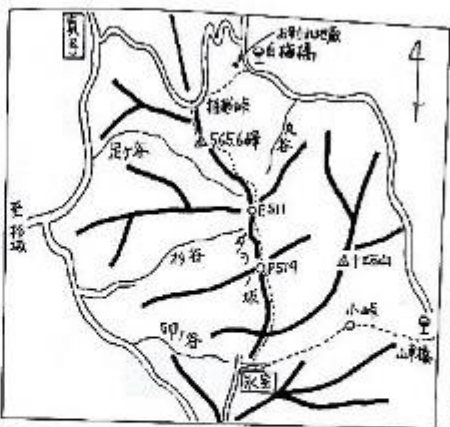
王朝ゆかり

静寂の山里

持越峠と

ダラノ坂

京都北山



『白樺橋』から持越峠の付道へ入ると地蔵堂がある。昔、ここはよみの国への出発点であった。雲ヶ畑は都の上流にあるため、この地に遺体を埋葬したのは皇室に不敬というので、分水嶺の持越峠を背を担いで越し、山中で大葬にしたのである。この地蔵堂が最後のお別れの場所だ、老人や女性、子供達はここで棺を見送ったという。峠へは杉林の中、掘道を越え、植林地を抜けると車道の持越峠に出る。峠から南の尾根を登る。植林の急登からすぐに道は平坦になり、愛宕山方面が開けると△566mに到る。ここから左の尾根を取り、雑木林の中、ヤセ尾根を過ぎると谷の鞍部につきあたる。今度は右のヤセ尾根をしばらく行くと左から丸谷の道が入る。この付近から笹は背丈程の高さになる。この先の大きな二股の分岐は足ヶ谷の分岐であり附けた場所なので休憩にはよいだろう。

この先は道もよくなり、休憩区の看板のある地点まで左、右と分岐があるが、左の尾根道を進む。少し登った地点に看板があり、左の溝状の道を行く。この先の分岐は菱形の十字路で、左へ進むと尾根道を取る。この付近、小さな分岐がたくさんあるが、よく踏まれた溝状の道をたどればダラノ坂の頂上に出る。右の道を登ると林道に出合い、氷室まで

ダラノ坂道



一本道である。氷室の集落を左へると山家まで行き止まりになるが、民家の間から北へ登る小道がある。杉林を抜けると道は三分し、右をとると小峠に左右、植林を下り、つづら折れをくり返すと谷沿いの道となつて小峠のある所に出る。この元で再び山腹を巻いて、比叡山の見える地点を過ぎれば林道の終点に着く。畑の間を北へ進み、流路になった植林地を抜けると『山守橋』バス停である。

(北山崎久)

△コースタイム▽  
 白樺橋バス停(20分) 持越峠(30分) △566  
 6分(30分) 足ヶ谷分岐(1時間) 氷室(15  
 分) 小峠(45分) 林道終点(20分) 山守橋バ  
 ス停

△地形図▽ 2万5千11 京都西北部・嵐山  
 寺通 京都バス出町畑駅前より『若尾橋』行

京都北山

(三) やぶ漕ぎ痛快山行記

未知の北山探訪  
チセロ谷山からナメラ谷

近日まれな曇りとなつない快晴のハイク日和りにめぐまれ、一路北山のメインへ向けて京都を後にする。早朝の空気の澄んだ眩いばかりの若葉芽が萌える鞍馬街道をマイカーで北上する。花背峠を越すと北山中核の峠々が重畳に、三に取るように巨岩から眺望でき、久しぶりの北山にうれしくなる。

本日の列会はかねてから楽しみにしていた未知のチセロ谷山へのやぶ漕ぎ山行である。桂川にかかる八樹橋を渡り、バス停「教王前」に着く。つい先程の京都バスで到着されているリーダー他6名の出迎えを受ける。マイカーの4名が急流し、今日の参加者は登山道入口名となる。バス停に駐車して、民家の横か

京都北山グループ

ら炬を横切つて、第一歩を踏み出す。  
 参加者11名なので帰京は私のワゴン車でという事になり、バス時刻を無視して快晴の下、のんびりムードで小ワサビ谷の地境前に出る。曇り下には大然とおぼしきワサビの群生を見る。谷を詰めると足下には可愛いうす

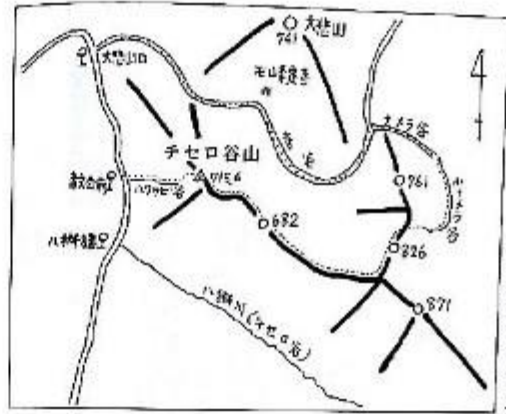
葉のイカリ草の群生が目を楽しませてくれる。またミヤマカタバミもそつと顔を覗かせて気持ちよく出迎えてくれる。  
 小ワサビ谷の源頭に着いて、後ろをふり向くとちょうど片波山が仰ぎよい姿で我々を歓迎してくれる。私は皆さんに片波山と背くらべするところまで、いままら急登に挑戦することを告げる。各自、薄道になり準備整い小

コブシ咲く春の北山



ワサビ谷を後にする。  
 道なき滝木と雑樹林帯のガレ場の急登に、各自ルートを選定し、一歩一歩踏みはりながら進むようにして登る。ときとして足場を取られがちで、何度か滑り落ちながらも徐々に高度を稼ぎ、中間地点で一旦思つく。ザリザリの冷気が配られおしく頂上、被れがいつべんに吹き飛ばす。後ろの片波山とも日線が合うようになる。ここからは頂上らしき視線が快晴

の下、樹々の垣間越しに眺める。あとワ  
ンスタップの頂張りて日さす未知の北山探  
訪、チセロ谷山山頂だ。休憩もそこそこ、  
あらかじめリーダーが付けてくれた登山ツ  
ルールの紐を確保、拾って一歩一歩灌木・雑樹  
林帯を前進する。源頭を出発しておよそ1時  
間で、今日のハイライトチセロ谷山(3等三  
角点、715・6)頂上に飛び出し、全員  
登頂する。



リーダーの言つておられた通り風景は抜群

り残された一部の土壌に今を盛りと可憐なシ  
ョウジョウバカマが懸命に咲き誇っている。  
周囲の展望は、朝のチセロ谷山の上はがらり  
と変わり東方が明るく開けて、遠く比良山連  
峰が望める。右の遮薬山から武彦ヶ岳に  
至る稜線が今日の快晴に映えて美しい。手前  
には疎林(970)が真正面に鎮座してい  
る。杖々は寺谷の相違奥に突っ込んでいるこ  
とがこれで確認できる。

林道終点より一気に、下に見える小ナメラ  
谷林道を目指して約1500mの急降下だが、  
支尾取り付き地点で小休止する。するとこ  
の支尾依こそが立派な石相帯風情で、眼前に  
石植花の群生を見る。半分ほどが本道開闢であ  
る。思わぬ石植花にお目にかかり、石植花家  
族を酒造りたてまつりしてしまふ。大抵石植花地帯  
は険しい岩場の急斜面が多く、一歩一歩慎重  
に足踏を確保し、注意して下山する。伐採帯  
の急斜面を下りる人、迂回して岩場の谷間を  
下りる人に分かれて、全員無事小ナメラ  
谷林道に降り着く。ここまでは持ってきた私の  
アイス履きコーヒを放出して、ゼリーの  
おやつと共にコーヒータイトと相成る。  
出発後20分でナメラ谷出口に出る寺谷林道  
に入る。当日予定されていた北山「二本杉」  
行きは中止となる。ナメラ谷出口から40分

だ。眼下には深いチセロ谷を通して、桂川に  
沿って八槻集落が手に届くように望める。一  
方面に眼を向けると、鞍馬尾根からの天狗杉、  
旧花巻への麓線、それに続く大見尾根とそ  
の合間に北山別所集落がくっきりと顯れる。  
その奥は標高ヶ岳稜線から、城丹原集の飯盛  
山、天童山が眺望でき、正に北山中腹の展望  
だ。チセロ谷山頂上付近の植林帯は、杉・檜  
でまだ4-5年といった樹齢なので、これだ  
け雄大な風情を得るのであろう。

リーダーは絶好の快晴であるので、少々足  
を延ばして寺谷の奥にある北山の「二本杉」  
まで行こうと、大振り切りだ。展望を満喫し  
て、チセロ谷山を出発する。いよいよ北山名  
物のやぶ漕ぎが始まりそうだ。灌木・雑樹林  
帯とブッシュと緩から胸までのクマササが統  
くS字の稜線上を東にとつて前進する。淡い  
緑の灌木・雑樹林帯の下にはクマササの縦線  
がギッシリと埋まり、我々は稜線を外すこと  
なく一列縦隊で、決くように前進する。稜線  
尾根上をくぐるコブを越える。樹齢300年  
の木、もチラホラと見える。また北山天然記念物  
の「大杉」もあちこちに見え、しみじみと大  
自然の仕草に人間の弱さを知る。40-50分歩  
いてP682と付近で山間休憩となる。左前  
方には大志山が樹々の垣間越しに覗いてい

大志山キャンプ場を通過して、協定寺門前の  
料亭を過ぎて休憩する。私等は熱いお茶の接待  
を受ける。山菜の珍味を賞味して、私は「ふ  
さのどう」を買う。Nさんは茶店の前の二軒  
家へ行かれ、「だるにすけ」を買われる。北山  
にも「だるにすけ」を売っている店をこの歳  
になり初めて知る。

茶店を出発して黙々と寺谷を下る。大志山  
口バス停を16時半に通過して、10分後に駐車  
場の教会前に到着する。それぞれに着替えを  
すませ、全員ワゴン車に乗車、17時に教会前  
を後にする。夕方の静寂、閑静な北山集落を  
幾つか駆け抜けて、花巻峠で一休みして、一  
気に鞍馬街道を駆け降りる。好天に感嘆され  
北山の中の北山の真髄を思う存分だ、一日輪  
快にのんびり楽しませて頂き、未知の北山探  
訪チセロ谷山山行を終える。

- 平成34年4月21日歩く
- △参事タイムV教会前9・15-10ワサビ谷前
  - 廻9・30チセロ谷山10・20-10・40-P6
  - 8211・20-P82612・40-13・45-小ナ
  - メラ谷林道終点14・00-峠定寺門前茶店15・
  - 50-16・05-大志山口バス停16・30-教会前
  - 16・40
- 〈撮影〉 二万五千一花巻
- 昭文社「京都北山」(岩波文庫)

る。奥に突進するに従って樹林の密度は薄ら  
なり、ササの下に大木の幹木も多くなつてく  
る。つまやかぬよう後方に連呼して前進する。  
稜線の小広場に出ると可愛い花をつけたイワ  
ウチワや開花を下向きに咲くドウダンツツジ  
やミヤマシキビが被れた私たちにそつと暗く  
ように心相ませしてくれる。およそ1時間歩行  
して、幾つかのコブを越して展望のない台地  
で5分間の小休止。肩が近いがまたのような  
重い腰を上げて尚前進。途中に時らしきを通  
過する。明るく左の谷には今最盛のコブシが  
咲き乱れ、ところどころには負けじと遅咲き  
の山ザクラが満開で、気分をうれしくさせて  
くれる。P826と付近の台地の灌木の中、  
樫の大樹の下で近い参事タイムとなる。

リーダーは午後まだやぶ漕ぎが少々続  
くとのお進言があり、冷たい暗ビール2本の  
ところを一本にして慎しむ。これも緊張の統  
きでよいことだ。

樫の大樹を後にして灌木の中、稜線を少々  
登る。午後の登りは特にこたえるが、やぶ漕  
ぎとなると一層耐え難い前進だ。T字の稜線  
を斜線に横断して、登り切るると目さす小ナメ  
ラ谷林道の終点に飛び出し、皆さん歡喜する。  
午後5時、切り開かれた林道の左右には、取

「この花」の種

ソメイシシノハハ科

(*Prunus yedoensis* Roseme)

五葉末期、樹皮縦裂の粗大葉が赤り出し  
たことから、この名に由来しているといわれ  
る。メイヨシノハハの葉の裏面に花びらに  
なるため、その樹皮縦裂ささるるべくもな  
く、花びらをいれれば事欠きませぬ。樹皮  
裂の「山道」さ、葉の古縁説としても不  
可欠の種。

六月から八月頃に花を咲かせ、天日で  
乾燥させたものが、主に暖地のに種わける  
牛蒡の増殖です。未梢性で作用し、葉質粘  
肉の分泌を促す、葉質の増殖運動を促進  
させることにより、葉質の増殖運動を促進  
させる。その成分は、クマリン配糖体のサウリ  
ニンとサウリニン、サウリニン、サウリニン  
の成分を有して増殖する。

この種は、オオシマササの葉を使った  
種増殖の増殖の増殖、一年間葉を増殖  
するために採る種「メヤマシキビ」の葉質  
除々に分厚さを増殖する生じたもの、ク  
マリン配糖体そのものには、葉質を増殖  
させる。また、この種は、葉質を増殖  
させる。その成分は、クマリン配糖体の葉  
質その成分が、葉質を増殖させること  
を促す。

東大寺二月堂に春を求めて

松永 恵一



大松明

「水取り籠りの僧の音の音」となっている。「氷の籠」とはいかにも解し難い言葉であるので、夢野が「芭蕉翁遺集」で書き換えて出してから「こもり」と書かれた時期があった。「水取り籠りの僧の音の音」では、水取りとはこういうものであるという事を説明するにすぎない句になっただけで、芭蕉翁の考へる句ではなくなってしまう。

二月堂

天平勝宝4年(752)、東大寺建立に功績のあった良弁僧正の両弟実忠和信が創立。現在の建物は江戸時代の寛文9年(1669)

百瀬が二月堂の水取りを見学に来たのは、貞享2年(1685)の春「野ざらし紀行」の旅の途程であった。故郷の伊賀で旅の正月を迎えて、寝かくなると共にまた、わらじの紐を結んだ。この句は「こめるほどの余寒の深夜に室内をめぐる白衣の僧の木履の音が清くてひびくま」と解されている。「走り行住」というのがある。実忠和尚の感得した聖徳太子の世界の一夜は、人間界の四百年に当たるので、菩提の檀那では追いつかないので、春の音を高らかに室内にひびかせながら「西無明上」「西無明下」と唱えて内陣のまわりを全方をよりしほつて走り回ると、床板をたたきつけんばかりの運轉音になる。時間と競争するのである。

大正2年(1913)に立てられた句碑は

おたいまつと籠籠  
春の音れを名けるのは、音のとう、ほろに  
がい春の味、鮮やかな音、また、櫛の朱鳥、  
そのころ千部奈良では平大寺の修二会、お  
水取りの法会が行われる。このお水取りがす  
むと、大和路に響が駆け足でやってくる。  
修二会は大公開の年、天平勝宝4年(752)の  
5月、実忠和尚によつてはじめられ、毎年次  
かすことなく続けられてきたという。お水取  
り、おたいまつは俗訛で、二月堂の本尊十一  
面観音に香を焚き、祈る法要から、む  
ずかしくは十一面僧過法と呼ばれる。  
大松明が狂舞し、天平の世が、時を越えて  
現代に響ってくる。  
二月堂に籠りて  
水取り水の僧の音の音  
百瀬

に再延されたもので、清水寺や長谷寺と同じ  
様に舞や踊りになっている。本尊は大小二体  
の観世音、秘仏、実忠和尚が難波の浦から迎  
えられた生身入肌の一十面観世音が小観音と  
いわれる。この十一面の小観音に罪過を懺悔  
する行法が修二会で、このお堂で行われるこ  
とから二月堂と呼ばれるようになった。  
二月堂から大仏殿、生駒山へかけての  
廻廊はずばらしい。

薄紅の名残の光の中に、大仏殿の燈が、く  
うんとせりだしてくる。黒々とした巨船にも  
似て、その大仏殿は力強い。

お水取り

東大寺の二月堂で、3月12日の夜半に行わ  
れる行事が、「お水取り」と呼ぶ。大きな松明  
が、壁に火の粉を散らしつつ、廻廊の上を  
走りまわったり、さらびやかを行列が、石段  
を静々と降りて来て、「若狭井」から木尊に供  
える水を汲みあげるおぼろかな光景は、あま  
りにもよく知られている。

お水取りに一つの伝説がある。「東大寺聖  
母に上ると天平勝宝4年(752)、聖母和  
尚が二月堂で修二会を始められた時に「神  
名籠」というものを詠みあげ、詠問の神々を  
勧誘された。神々はすくなく集まつてこられた

のに、若狭の巨(若狭井)の津敷明神は、的  
り好きで釣りをしていたために遅刻した。行  
法の末にうらやましてきて拝観して感徳のおま  
り、お水とおおびのためには観音さまに香水を  
奉ることを約束した。とたんに、黒白二羽の  
鶴が、二月堂下の大岩を破つて飛び立ち、そ  
の跡から清らかな水が湧き出た。それが今の  
若狭井戸だといふ。今でも若狭井のお堂の廻  
廊には、鶴をかたどった瓦が置かれ、その井  
戸の水は、ほろほろ若狭から流れて来ると伝  
える。一方、若狭の津敷川には、「鶴の橋」と  
名づける湖があり、その近くには若狭彦神社  
がある。奈良のお水取りの直前、3月はじめ  
のころに、そこで「お水送り」という祭りか  
行われる。二月堂の若狭井へ水を送る神事だ  
である。

もうひとつ、修二会にまつわるふしむ話を  
がある。これは鎌倉時代の話である。承元の  
頃、過去帳の転写に忙しくなれた東大寺関係  
の人々の名を誤りしるる行法を焚焼といふ  
僧が行つていた時、突然、青い衣の女性が現  
れた。そして「なぜ、私の名を焚き落とすか  
か」と恨めしげになつた。驚いた僧は、  
見たまうな見たことのないような女だぞとない  
女を見たが、即座に「青衣の女人」と詠み  
上げた。すると、女人の姿はスワツとかき消

えたといふ。

それ以来、過去帳には「青衣の女人」と記  
載された。

コース概観

今回は、奈良の町なかをあてもなく、足に  
まかせて歩いてみたい。あちこちに出発ある  
古社寺がある。思わぬ古蹟や伝説の跡を見つ  
ける。藤原氏の氏寺として栄えた願成寺、明  
治時代の洋風建築として有名な奈良国立博物館、  
明治時代の洋風建築として有名な奈良国立博物館、  
和漢が僧の受戒のために築いた戒壇院、古蹟  
の空柱を味わいつくした大仏殿の巨室、石室  
の遺を二月堂へと登り、「おたいまつ」を見学す  
る。

近鉄奈良駅で下車。駅前の登天の路を東へ、  
奈良のシンボル陣の出現をうける。古くか  
ら春日大社の神地として保護され、古くか  
のは遺蹟で、三作石子話の伝説もある。興福  
寺五智塔は天平3年(752)の再建と伝  
え、高さ52呎で京都東寺の塔につく日本第二  
の高さを誇る。明治の薄仏殿の時には赤  
に出されたが、買い手がつかず残ったといふ。  
塔前の燈籠石の八雲の蓮井が「天平の神」  
を伝える。五智塔の北側にあるのが、東金堂。  
節分の夜の鬼追い行事は盛人、赤・青・黒の



二月堂のお水取り

三匹の鬼と子鬼が松明を手に大暴れした後、毘沙門天を意のままに攻められ退散する。このお堂は知恵の文殊菩薩を祭るので文殊堂ともよばれる。広々とした境内には、法隆寺夢殿と同様の北円堂や、西国三十三か所第九番の札所の南円堂、中金堂・三重塔など中世のおもかげを残し露時をしのばせる。時間がゆるせば国宝館を拝観したい。けがれない少女のような、さかん気の少年のようを三面六臂

の阿修羅像が出現してくれ、東金堂群像修理の時に発見された、飛鳥山田寺の仏具、ユ一モラスにおとけた顔で露龍を待たず燈鬼・史徳鬼、十六弟子立像など有名な仏像たちがあまた並んでいる。

春日大社の一の鳥居の前を右折すると、明治の名建築のひとつ奈良ホテル・旧大乗院庭園。一の鳥居をくぐると、左手に明治の代表的な洋風建築の奈良国立博物館。重要文化財で仏教美術の粋を凝縮している。奈良・大和路の古美術鑑賞の予備知識を得るためにも便利。秋の正倉院展は新館で開かれる。飛鳥の一角に春日大社の万葉植物園があり、万葉集に詠まれた植物に出会ったりするのも楽しい一時だ。表参道の向側には石燈籠が重なるようにしてびっしり並ぶ。道分とお盆の夜は、これらの燈籠と本殿回廊の約燈籠すべてに火がともる万燈籠の口。菊園の中にもほらめく光は、幽玄の世界を演出する。

国立博物館裏の交差点を北へ行きすぐ右折すると奈良県知事公舎。そして依水園・寧楽美術園。東大寺の南大門。若草山・春日山・高円山を背景とした回遊式庭園。春秋の花どきが一段とよい。美術館は東洋京美術品を展示している。小高い松林の中に戒壇院がある。有名な聖徳の四天王に出会う。あるものは日

をいからせ、あるものは唇をひそめ、あるものは口を大きく開き、あるものは目を細めて、じつと四方を守っている。北へ行くと大仏橋。橋を右手にみながらさらさら北へ行くと左に秘蔵門が見える。天平造像特有の華やかさとスケールの大きさをよく映し出している。この門から東へ行くと秘蔵門と秘蔵門で知られる正倉院。はるか千数百年前の文化を確実に伝える。大仏殿の真裏の松林は講堂の裏。大きな遊歩道が点在している。耳を澄ますと秋風が吹く。目をとじると天平時代のような気がする。

清和院から縦い道を登りつめる。二月堂の舞台が目の前にあらわれ、開巻山庭。参道所、仏館などはお水取りの行事に際連した建物。南側の建物は三月堂(法華堂)。建物の北半分が天平時代。南半分が鎌倉時代。時代の異なる二つのお堂が中庭張でつながれている。薄暗い堂内には三頭八臂の虚空蔵菩薩立像が堂々たるお姿を立っておられる。面影にやさしく微笑する日光・月光菩薩立像。西院は古くから紅葉の名所として知られる。手向山に鎮座する手向山神社(宇向山八幡宮)。最初の絵馬の型といわれている立絵馬がかわいい。さらに南へと道をたじると春



日大社。西日堂の橋から南橋へ向かう。この大きな覚醒が、大分間眼裏裏が行われた時に使用された。大仏殿を眼下にする。堂前の八角銅製蓋の天平夫人・音声・菩薩に会う。堂に入ると、大仏さまが巨大な姿をあらわす。天平の面影は蓮弁に模刻された蓮花の世界的仏物彫刻が伝わる。唐の群の向こうにそびえ立つ南大門。鎌倉時代の天竺様の建築で、わが国最大の門である。運慶、快慶がその弟子たちと共にわずか三か月で作ったと

いう金剛力士像。簡潔な彫刻な姿はいかにも鎌倉時代らしい。奈良に別れを告げる前に櫻沢池のほとりに立ちてみよう。萌え始めたばかりの柳の若葉と五重塔。夜はライトアップされる。最も絵巻音階のだけ、やはりここが一番奈良らしい。

（五分）近鉄奈良駅  
 ▲春日山 近鉄奈良駅と近鉄奈良駅 4800円  
 ▲地形図 2万円 奈良  
 問い合わせ先  
 奈良交通バス本社 0742(222)5263  
 近鉄旅客案内テレフォンセンター  
 06(771)3105  
 052(561)1604  
 近鉄の運具、列車時刻、沿線行事、催し物などの案内  
 『おたいまつ』は午後7時より始まります。

登山に必要なものは、  
 国産・舶来  
 すべて揃っています。

T504 京都市中京区丸太町通堀川東入  
 ☎(075) 211-5758  
 FAX (075) 231-0518

山とスキーの専門店  
**京都 ムラカミ**

# 陽春の山

## 特選 コースガイド

- 1 藤原岳
- 3 生石ヶ峰
- 2 雨石山・櫃ヶ岳
- 4 鶏冠山・竜王山

山道にはフキノトウ、ツクシ、ワラビ、ゼンマイ、イタドリなどが次つぎと顔を出す。よく見るとマンサクの黄色い花も咲いている。やがてコブシの花が咲き、山の斜面にほんやりと白い花が幻想的な表情を見せ始める。



陽春の山

残雪の渓流に箱柳がやわらかな乳白色の花をつける春を知る。長かった冬も過ぎ、陽光にまつまれて春が来る。

山道にはフキノトウ、ツクシ、ワラビ、ゼンマイ、イタドリなどが次つぎと顔を出す。よく見るとマンサクの黄色い花も咲いている。やがてコブシの花が咲き、山の斜面にほんやりと白い花が幻想的な表情を見せ始める。

春の山歩きは楽しいことはいっぱいだ。山は精気にあふれ、朝々には新芽が芽吹き、道端にはいつせいに春の花が咲く。体が自然に溶けこむよう生命力が湧き、活力が出てくる。山菜を摘んでの短毛後は、そのホロ苦さに不意と初巻の巻を流し出させてくれる。徐々に日も暖くなり遠い山へも行けるようになってくる。夏はフツシユの藪垣もこの頃なら平気で歩くことが出来る。冬の間おっくうがっていた、山行の仲間たちからも話をかけられるようになる。

春の山は単にヒールを白指より、遊びながら余韻をもって、ゆっくりと自然を味わって歩くほうがよい。渓流や谷に沿った道なら豊饒な山菜取り、春吹きの新木林は小鳥の囀りに耳を傾けながら、ひっそりと咲く花たちを語りかけながら、季節の移ろいは早い。一週間にわたる山の自然は変化する。あつという間に桜が咲き散り、そしてヤマブキが咲いたと思ったら、もうツツジにとって変わる。初夏を告げるホトトギスの鳴き声も聞く。

## たのしい山歩き

### 尾瀬雑考③

# 「春に咲く、尾瀬の花」

松下 満

野山に自生する山野草はそのいずれもが花を映かす。でも人々から感嘆詞を浴びる花、反対に見向きもされないかわいそうな花と千差万別である。ここ尾瀬に咲く花たちも同様である。水芭蕉・ニッコウキスゲだけが御光を浴び尾瀬の花と名づけている人が多い。尾瀬の冬は積雪4〜5m、その重圧に耐え、じつと春を待つている野草の新芽と花の蕾たち。雪解け（5月中旬頃）と同時にそれ等はいつせいに芽吹き、花を映かす。でもその花たちに大敵が待ちうける。遅霜である。特に

水芭蕉はその被害が大きい。純白の花（これを花びらと思っている人が多い。花は小さく黄色や白緑の花茎に約100個の小さい花が咲く）の先端が蕾にあたり、無残にも黒く縮みかけた状態になってしまう。でもその白い苞をよく見ると、筒状の小さな凹凸が見られる。これを「蕾の下で花の蕾をしっかりと包み、寒さに耐え春を待たせ、私たちの来るのを待ちながら、やっと花を映かしたその疲れが現れているのだな」というように見てやると、水の妖精に出逢った感が一層深まると思える。

山麓、樹林帯、谷間、川沿い、山小屋などの周辺に生える水芭蕉は大きくて見栄えがすて、夏にその葉をみかけると驚くほど大きくて、これがあの水芭蕉の葉かと幻滅することがある。それにひきかえ、貧乏僧の産卵の中に生える水芭蕉の葉は10cmほどで小さくても可憐である。

同じ尾瀬の産卵場を見られる場所は、龍宮と下田代間の六長谷池周辺や東電小屋から東へ向かい樹林帯を抜けたところの湿地である。花が朝日を受けてきらきらと金色に輝く光景がすばらしい。

この時期に咲く花に立金花がある。この植物は水が動いていないと生きていけない。下

田代十字路から三条の湖へ向かう道のすぐ右側に数百本にわたって蕾状の群落が見られる。目には見えない水（地下水）はその立金花の群落到ちて流れている。

この黄色の花を見つけたら、花びらを数えて欲しい。水芭蕉は5枝の花弁であるが、6〜7枝はきざし、私が見つけたものの最悪は13枚もあった。

春の尾瀬では、水芭蕉の白い苞と、この立金花の黄色の花弁が鮮明に印象づけられる花である。



特選コースガイド 1

聖宝寺から

ふじわらだけ  
藤原岳

鈴鹿

中級コース(★★)  
小山 ひろし

藤原岳へは近鉄名古屋線の富田駅から三岐  
鉄道に乗りかえ、終点の西原原で下車、大貞  
戸(表道)コース、聖宝寺(裏道)コース、  
坂本谷コース等をとるのが普通である。関西  
方面からマイカーを利用する場合は、名神彦  
根I・Cから国道309号を経由して、鞍掛トン  
ネルを抜け藤原町山口から入るとよい。駐車  
場は西原原駅構内。土、日は一日500円で  
ある。

晴れるかなと思えば俄に曇り降り、降り出  
したなど見上げれば虹が立つ。揺れ動く憲法  
問題を象徴するような今日、憲法記念日の空  
模様だ。8時45分、S氏と二人西原原駅を出  
発、防傘を兼ねての雨合羽を着込んで出発だ。  
往路は聖宝寺コース。復路は坂本谷を下る予

定。聖宝寺へは駅の北西(駅を背に左方向)  
10分ほどの所にある「阿彌尊仲社」を経て登る。  
神社へ曲る角に、藤原山麓聖宝寺と刻み込ま  
れた風化した石碑が建っている。境内右奥の  
急な石段を登り、ちょうど240段を登りま  
った正門が聖宝寺。右手に大きな茶臼場があ  
り、2米ほどの稚魚が、刺身になりそうな  
大ものまで、饅頭だいたく回遊している。駅か  
らここまで約15分である。神社と同じ名の流  
が山門の左手奥に音をたてている。以前はそ  
うではなかったように思うが、今日三本滝  
となつて落ちていく。台風による崖崩れのせ  
いかも知れない。杉の大木が2本、流れに平  
行して倒れている。境内は既に植物の宝庫。  
香木も立つ高緑の大鏡面。山口誓子の句碑  
が珍しく自然に融け込んでいく。天気も少し  
回復し、まさに万歳。まほうしいばかりだ。

靴のひもを締め直し、9時20分、境内奥か  
ら右手の登山道へ。程なく、一目目の標識を  
見る。9時30分、本ルート唯一の水場。長命  
水におおる。ヤマブキ、シヤガが賑やか  
に咲いている。これより、12・13分間隔で2  
合目、3合目、4合目を通過。一方が崖だつ  
たり、杉林の中の急登が続いたり、あまり足  
場はよくない。ウグイスに助まされながらの  
ふんばりとこころだ。天気は狂交らずの気まぐ

暮雪の藤原岳



れ。10時10分、5合目で下山の父と二人づれ  
と出会う。8合目で吹雪かれて、引き返して  
来たとのこと。全く何という天候だろう。し  
かしこの辺りから、イネリンソウの群落があ  
らわれ、花の種類も豊富になる。杉木立ちも  
明い雑木林にかわる。姿は万全。進むこ  
とにする。7合目あたりからカタクリが見ら  
れるが、花は既に開いていない。11時00分、  
大貞戸コースに合流。白花のイカリソウが地  
を照らすように咲いていく。フクジュソウは  
とくに花を落して、既にニンジンノ葉ほど  
に成長している。この辺り8合目だが、吹雪  
は収まり、青空さえ広がっている。11時15分、  
9合目。カタクリの群落が随所に見られるが、  
花はくたがびれている。暮るにつれて雪が増す  
が、麓は完全に晴れわたり、養老山脈の山裾

がめくれそうな程くつきりと近く見える。し  
かし藤原岳の頂上はまだ雲の中。

11時40分、積雪7〜8cmの藤原山荘に着く。  
風が強くなり、山荘内でにぎり飯と焼酎だが、  
中には先客20、30人が寒さを避けてひしめい  
ている。外で休むしかない。さいわい雨とい  
うか雪というか曇りというかは止んでいる。爽  
一刻見え隠れする南前方の藤原岳を眺めなが  
ら、山荘の壁にもたれて、S氏と二人昼めし  
とする。装備にぬかりはない。イタリア土産  
のワインもある。コーヒーもある。テーズに  
バナナにゼリーはいかが。



藤原山荘復路は普通30〜40分。しかしこの気

まぐれ気象のお蔭で、クマ笹が雪で倒れ、そ  
う簡単にには行けそうにない。今日の目的は花  
を楽しむことにある。こんな中途半端な雪で  
は早々におさらばしよう。12時05分、養老  
山に背を向け、山荘の右手から、白船峠に向  
かう。ところがこの道が大変。雪が一段と深  
く、しかも春特有のベタ雪で始末がわるい。  
野草はことごとく雪の下。時々はずれの積氷  
だけがせめてものなぐさめ。天狗岩分岐12時  
30分。天狗岩までわずか5分だが今日はパス。  
この辺りコバイケイソウの群落。首まで雪に  
埋もれている。倒れた笹が道をふさぎ、ヤブ  
こぎ状態がしばらく続く。時にはクマ笹の上  
を泳ぐように進む。13時05分、鉄塔の立つ小  
広場に出る。下界はすっかり晴れている。左  
前方に御池池が見える。電線がウオンウオン  
鳴っている。下るにつれて雪は消え、13時20  
分、白船峠着。足元にカタクリがいっぱい。  
やや遅きに失した感はあるが、まだまだ捨て  
たものではない。S氏と二人、それぞれアン  
グルを決めてシャッターを切る。木もれ陽が  
やわらかく、気温も上がっている。あとには坂  
本谷をのんびり下るだけだ。

まさに天然の植樹園。野草の宝庫だ。白花  
というより、クリーム色がかかったイカリソウ  
が多い。ニキササのつぼみがふくらんでいる。  
イネリンソウ、ニリンソウの大鏡面を左右に  
ルンルン気分だ。ヤマブキとヤマブキノコが  
同時にフライングにおさまる。オドリコン  
ウもいっぱい。アケビも花さかりだ。やっぱ  
りこの道を来てよかったと思う。  
14時40分、10数匹のザルの群れが前方を横  
切る。子ザルが2〜3匹まじっている。左斜  
面を下り右斜面を登って、彼らは移動してゆ  
くのだが、彼らの通ったあと、切り立った両  
斜面から、こぶし大の石が、かなりのスピー  
ドで転げ落ちてくる。まともにくらえば一巻  
の終わり。本山行でも頻りに転落する場面だつた。  
やがて伏流が見え、豊かな水屋の滝を右  
下に見る。まもなく山道は急道にかわり、右  
に小さな増水を見る。増水の下で急道を登り  
右下の杉林をつつ切ると、筒装された急道に出  
る。小さな橋を渡り、右手に村の浄水場を見  
て、あとは一路西原原駅にもどるだけだ。駅  
までは約20分。シヤガがいっぱい咲いている。  
平成3年5月3日歩く  
△コースタイム▽  
三岐鉄道西原原駅(20分) 聖宝寺(2時間20  
分) 藤原山荘(1時間15分) 白船峠(1時間  
40分) 表堤(20分) 西原原駅。  
△地形図△ 昭文社「聖仙・伊吹・藤原

ヒカゲツツジ咲く

雨石山から

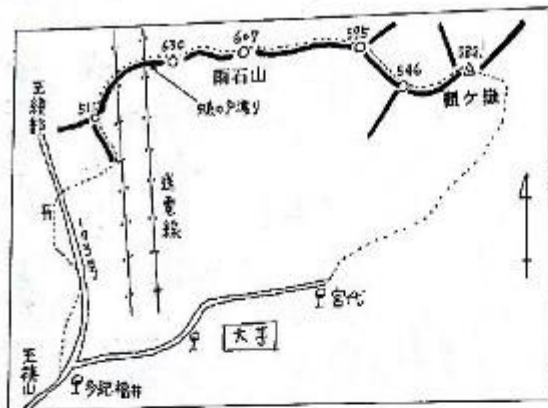
櫃ヶ嶽

丹波

中級コース (★★★)  
安田 憲 弘

雨石山と櫃ヶ嶽は、いわゆる多紀アルプスの東の端、兵庫縣と京都府の境に位置する。雨石山(607.7)は、地形図に標高の記入もなく、地味な存在だが、なかなかの山容である。多田繁次氏による試登の記録がある。「ひょうご山連嶽」なつかしの山やま、神戸新聞総合出版センター、1999年。

**雨石山へ**  
JR篠山口からバスで本篠山へ。ここで大宇行きのバスに乗り換えて、多紀福井へ降りる。橋を渡って北へ、国道173号に沿う旧



雨石山は、河の標高もない平らな山頂で、展望も得られない。

櫃ヶ嶽へ

雨石山から東へくだり、ゆるやかな斜面を登った所が、595mピーク。ここからは、踏み跡もない。木々の間から見え隠れする櫃ヶ嶽とその右に546mピーク。その546

道を行こう。小原集落の神社の前に大きなイチノウの木がある。周囲に公園化する地点から、東へ田んぼ道を進むと、「小原自然公園」の看板が迎えてくれる。そこには、簡単な案内板もある。

まずは一の滝。落差約10m。側に行仏などが祀られていて、山岳仏教の修行の場所であることをうかがわせる。さらに上流に、二の滝、三の滝と続くのだが、先を急ぐわれわれは、滝見物をカットして左の山道に取りつく。やがて、急な石段を登りきった所で、ぽっかり口を開いた大きな河穴に出会う。黒沙門洞と呼ばれるものだ。内部の天井は高く、広さは畳20枚分くらいはある。奥には祭壇があり、黒沙門天を祀るといふ。硝子と、天井から滴り落ちる水滴の音とが、不気味な宗教的な雰囲気を醸し出している。

河穴から左手の急斜面へ取りつく。ここからは、はつきりとした道はなく、雑木にすがっての急登だ。511m標高点に達して一息入れる。西の八ヶ岳山が見えるミラミッド形を見せている。

やがて送電線塔に出会う。番目の送電塔付近からの眺めは良い。北東に長老ヶ岳、北西には五台山が双耳峰のように見えている。送電線塔の所まで遠視視が来ているから、それ

ピークを目標にして、道のない急斜面をくだる。地形を判断して、鞍部を目標とする。地形図に記されている、この鞍部を越えていく路線は、今は消失しているようなので(要注)

鞍部から546mピークまで急登すれば、あとは、なだらかな農道の道をたどって櫃ヶ嶽に達する。二等三角点の櫃ヶ嶽の山頂は、広く切り払われていて、東側の展望がよい。下山は、南側への、よく踏まれた谷道をくだる。林道が舗装路に変わって行けば、古代の笹藪、バス停はもう近い。

(平成3年4月28日歩く)

ハコースタイム

JR篠山口駅(バス17分) 本篠山(バス16分) 多紀福井(40分) 一の滝(20分) 黒沙門洞(45分) 送電線塔(30分) 雨石山(15分) 595mピーク(25分) 546mピーク(30分) 櫃ヶ嶽(40分) 古代バス停(地形図) 2万5千11村誌(向い合わせ先)

篠山口駅旅行センター

07995(94) 1046

櫃ヶ嶽の山頂



を利用すれば、ここまでは容易に登ってこれるはず。

今度は細い岩尾根を進む。櫃ヶ嶽の河波りと呼ばれる所だ。櫃ヶ嶽だたどうも。標高点は630mピーク。地元では黒沙門山と呼んでいるとのこと。この時期、岩尾根のあちこちに咲くヒカゲツツジが美しい。

河波りの河波り、を過ぎて、ゆっくりとした山稜に変わってくれば、雨石山へと導かれる。

<p><b>社員 専業 嘱託社員</b></p> <p>山旅・秘嶽・京都等への旅行会社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●尾瀬・アルプス等の山岳経験者歓迎</li> <li>●男女正社員大卒30歳迄応募可</li> <li>●業務社員60歳迄</li> <li>●給与当社規定</li> <li>●勤務当社規定</li> <li>●通勤費送付・業務日通帳</li> </ul>	<p>◆水芭蕉の尾瀬を歩く3泊4日大坂夜発</p> <p>出発日 5/21(水)・23(金)・25(日)・6/7(水)・8(木)・8(月)・11(木)</p> <p>※ 費 47,500円予定(交通費・現地2泊6食)</p>
	<p>◆花の尾瀬とランプの旅3泊4日</p> <p>出発日 7/2(水)・9(水)・13(日)・15(火)・19(土)</p> <p>※ 費 49,500円予定(交通費・現地2泊6食)</p> <p>7月は山頂開花が花開くベストシーズンです</p>
<p>◆至仙山のお花畑と駒ノ湯 7/2(水)・3(木)・13(日)・15(火)・19(土)夜発</p> <p>◆東北最高峰・櫃ヶ岳登山 7/25(水)・26(木)・8/12(水)・19(水)夜発</p> <p>◆会津駒ヶ岳と檜枝岐 7/23(水)・28(金)夜発</p> <p>◆夏休みハイキング 7/23(水)・23(木)・6/12(水)・19(水)夜発</p>	<p><b>旅の本棚</b> 企画室 ☎(06)232-3000</p> <p>〒541大阪市中央区高津橋4-5-13 高津橋キンビル(大塚駅前車庫裏1167号)</p>



春の生石高原

おいしがみね  
生石ヶ峰

紀北

初級コース(★)  
濱田啓司

生石高原は和歌山市の南、紀伊水道に面した百田・海部の東にある。貴志川の南に連なる長峰山脈の西端に位置し、生石高原は立自然公園に指定されている。ススキの高原は360度の展望に恵まれ、晴れば奥高野の山々から和歌山や淡路島までが見渡せる。マイカーで行くなら京外交通の便は良い。阪和自動車道「龍南東IC」で出て野上電鉄に沿って東に走り、大木から海本川に沿って小川宮へ。道が狭いので駐車は注意を要する。電車で行くならJR紀西線の海南駅で野上電鉄(日方駅)に乗り換え登山口駅まで下車。バス(1日6本)で小川宮へ向かう。徒歩なら瀬井峠を越えて小川宮まで約1時間だ。南海の和歌山市駅8時55分発の野上電鉄バスな

て絵に描いたように見える。瀧原山や奥高野までの眺望が楽しめる。南東の方向に牧場も見えている。草原の端の岩に立って写真を撮った。



生石高原概念図

ら小川宮に直通だ。

早春の晴れた日曜日、生石高原に登って見た。小川宮の小さな八幡神社を出発。村の中の川に沿って舗装道路を山に向かう。正面に生石ヶ峰の山稜がそびえ、その麓に入っていく感じだ。

先ず中腹にある大観寺を目指す。村の中のあるやかな道は、ぐっと山に近づいた。車道と別れて、雑木林の中に入った。樺やしゅろの広葉樹の林の中を登って行く。しばらく登ると車道に出て大観寺に到着した。明るい置敷な感じの寺だ。視界が開けて下界が全部見渡せる。冷たい風が吹き、休憩もそこそこに出発した。

しばらく登って車道を離れ、立石不動への道に入る。不動の辻から道を左に取ってまた急坂を登る。雑木林の中にしゅろの木が沢山生えている。しゅろはこの付近の常緑樹で、これを利用して「しゅろぼうき」や植木用の「しゅろ種」などを作っているらしい。不動の辻から真つ直ぐに龍王水に向かつて、樹林の中の急勾配を登ると足元に大きな落石が出ていた。

しばらく登ると林道を横切る。ここが龍王水だ。水を飲んで休憩をとる。ここから、雨水にえぐられた赤土の道を通って登って行く。

ススキの草原の中を頂上に向かう。頂上は俗に東オンジと呼ばれる一等三角点のある生石ヶ峰(870m)と、無縁中継塔のある西オンジと呼ばれる頂上(827m)に分かれる。この間(約500m)は流るものないススキの広がる高原で、正に360度の展望だ。大峰連山から淡路島、晴れた日には更に四国の山々までが見える。

展望を楽しんで下りにかかった。ススキの草原を南東に下り、杉の植林に入るとやがて巨大な岩の下に杉木立に囲まれた生石神社が見えて来た。神社に御参りをして登山の無事を祈り、左に山腹を登くように北東の方向に通む。

杉の植林の中に小さなアオキの木が育っている。やがて水の

生石高原を生石ヶ峰へ向かう



く、ぐんぐん登ると急に視界が開け、頂上直下の別荘地に出た。少し登ると国民宿舎もあるが閉鎖しているらしい。頂上直下まで車道が通じている。

芝草の枯れた草原のような横線にどっかりと大きな笠石がある。素晴らしい眺めだが、北風が冷たいので笠石の南に回り込んで弁当をひろげた。快晴に恵まれて山並みが逆光に輝き、濃い緑から薄い水色に幾重にも重なっ

流れる小さな沢を横切って車道に出た。車道を右に少し下ると旧札立峠だ。この先から車道を離れ、左の山道へ入って下る。狼岩を過ぎ、杉の植林の中をどんどん下る。

木立の切れた所で振り返ると、僅かに頂上が見えた。しゅろの木の群生している林の中を下ると雑木林に出た。道に落ち葉が積もって小石と混ざりとても歩きにくい。

やがて山里に出た。北野の生花だ。梅の花が咲いて春のいい香りが漂っていた。あとには畑の間を「ふきのとう」を摘みながらのんびりと小川宮に戻った。(昭和63年3月歩く)

- △コースタイム▽
- 小川宮(20分) 高野橋(15分) 大観寺(30分)
- 龍王水(40分) 笠石(15分) 生石ヶ峰(20分)
- 生石神社(30分) 旧札立峠(70分) 小川宮
- △地形図▽ 2万5千1:1動木
- △問い合わせ先▽
- 野上電鉄日方駅 0734(82) 0745
- 野上電鉄バス 0734(89) 2751

特選コースガイド ④

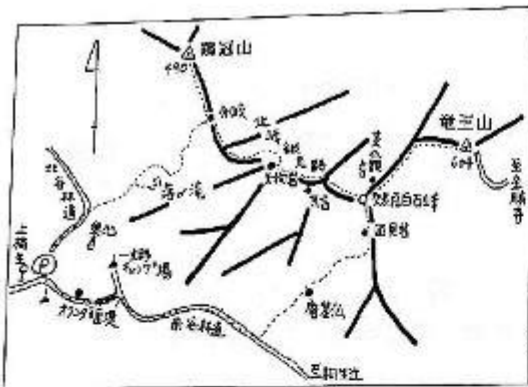
アルペン風岩尾根を歩く  
鶏冠山から  
竜王山へ

湖南

初級コース(★)  
村田 智 俊

湖南地方の山を遠征すると、白い岩が山腹に露出してまるで森のない荒涼とした火山のように見える。実際に歩いてみると風化した花崗岩に覆われ、わずかに松と低木が育っているだけ。あちこちに三頭や奇岩が溶けたわり低山ながらアルペン的な山容を楽しむことができる。湖南アルプス、金剛アルプスの名前で多くのハイカーに親しまれている。

大古の一番の山は深い森であったが、奈良平城京遷宮により、東大寺など多くの大寺院建立の用材として多量の木材が徴用された。又石山寺建立の際も伐り出され、その乱伐により今なおその跡が垣見される。一旦破壊された山にはもう森は戻ってこないのだから。



ンキ巨印をたよりながら、巨岩の上へよじ登る。ここがこのコース一番の大開闊地。湖東平野、琵琶湖、比良など眼下に広がる。展望を楽しむながら食べる弁当はさぞかしおいしいことだろう。この巨岩群はロッククライミングの練習にも使われているようだ。

縦走路を前へ行く巨岩がある。右手側はあらかじめ白岩、赤岩が展開して面白い。

登山口上桐生は草津駅から産バスが運行されている。駐車場も整備されマイカーにも便利である。付近は、ンクレーンショールームとして、キャンプ場やオレンジ園などあつて水ぬるむ春になると多くの家族連れや行楽客でにぎわっている。

登山口は駐車場から東へ延びる北谷林道から入る。林道を500mほど登ると土道標があり、右の登山道へ入ってゆく。ツツジ咲く雑木の中緩やかに登って行くと田んぼのある平田地へ出るがすぐに又林の中へ、流れに沿ってしばらくで落石が連続して、分岐から右の谷に架かる小橋を渡り5分で流の下に下り、高さ約20m。大岩から落ちる滝を縦貫しながら休憩するとよい。分岐へ戻り、登山道を行くと落石の下部へ回り込むようにして出る。このあたりから流へ落ちる上流の流れに沿って河原歩きとなる。岩が多くなつて谷間を詰めて行く北峰縦走路に到着する。

峠状の鞍部で日陰の中へ入る。縦走路を北へ行けば鶏冠山へ。かなりの急登をあえぎながら30分で登り登る。3登り三角点の山頂からの展望はわずかに北方が開けている。せつやく急登を登りかけたに報われぬ。先程の分岐へ急坂をいっきに下り、いよいよアルペン的な雰囲気がいっぱいの縦走路を前

湖南地方の山



へ進む。雑木も粗くなり徐々に岩稜帯の尾根は砂レキの道に変わる。ようやく左右の展望らしがよくなり、快道を縦走の気分が出る。吹き抜ける風が汗ばんだ身体に心地よい。

前方に巨岩の群れが展開する。近づくとあの岩場を行くのかと初心者は足がスクスク思いますが、縦走路は表側(左)を巻いて行くので心配はいらない。巻く道を下り、登るともう天狗岩の下に出る。ここから岩に取りつき

やがて竜王山への交差点白岩へ行く。左折し東へ延びる縦走路を行く。すぐに茶仏岨音がある。低木の中、砂レキの道を行くと前方にこんもりとした竜王山が見える。交差点から約30分で山頂に到着する。竜王山から竜王寺へ下山することもできるが、今回は又先程の交差点に引き返す。交差点から竜王山往復は1時間かかるので時間に余裕がなければカットしてもよいだろう。

さて交差点から下山にかかる。崖は、国見岩など奇岩の続く風情道をしぼり行くくと右へ谷間の道となる。岩のゴロゴロする歩きづらになり注意を要する。やがて山腹の森の中、狛岩(こがね)に出会う。高さ10mほどの巨岩に仏像が浮き彫りされている。仏像を拝んでから下ってゆくと南谷林道に出る。せせらぎの音も聞こえ、冷たい谷水で汗を洗い流せばさっぱりする。

左へ行けば桐生だが、右へ上桐生へ向かう。約1時間の林道歩きだが、今までと違い雑木林の中、やがて溪谷に沿った道となり落ち岩が増えてくる。花崗岩の間を流れる谷は美しい。道端の草花をたのしみながらゆつくり下ろう。回復でのコーヒーマウもよい。

一丈野野草場へ入ると右から台流すると行楽客が多くなる。オランダ人が作ったと

いわれるオランダ庭園をすぎると上桐生は近い。

▲コースタイム▼

- 上桐生登山口(50分) 落石滝(40分) 北峰縦走路分岐(30分) 鶏冠山(15分) 北峰縦走路(30分) 天狗岩(15分) 白石交差点(50分) 第三山(30分) 白石交差点(20分) 狛岩(1時間) 上桐生

金剛山 2万5千円 湖田・三坂 合間い合わせ先

産湖南交通バス0775(302) 3020  
桐生キャンプ場、一丈野野草場(産年利用可)  
産湖南光協会0775(49) 0246

松田敬男 山の版画・絵画展  
～南アルプスを描く～

1992年3月1日(日)～3月31日(日) 2,4本 昼休  
AM10:00～PM10:00  
・土曜日・日曜日PM5:00まで

版画・絵画  
合わせて15  
点ぐらいます。

炭火焼野園球  
HAYDN  
Since 1973  
〒300-0044 小川町1-1-1  
(11)075 221 2003

# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 線電・京福  
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽万葉ハイキング「飛鳥路回遊」  
 3月8日(日)集合吉野線飛鳥駅前9時50分(あべの橋駅8時50分発吉野行急行が便利)へコースの飛鳥駅—高松塚—立石—楠寺—石舞吉—高松塚—藤原寺—検院寺跡—飛鳥駅(約12分)、参加自由無料、天王寺事業06(624)038
  - 2  
 ▽文学散歩「観音霊場と城まつり」  
 3月22日(日)集合吉野線阪山駅前9時40分(あべの橋駅8時50分発吉野行急行が便利)へコースの阪山駅—豊阪寺—五百羅漢—高取城跡—豊阪山(約8分)、参加自由、大人2000円(バス代別途大人?、50円小人1300円)、高野大成就、原女子短期大学教授廣田保雄氏、天王寺事業06(624)038
  - 2  
 ▽朝日自然教室「史跡ハイキング 巨勢の道」 3月15日(日)集合吉野線吉野口駅前10時20分(あべの橋駅9時20分発吉野行急行が便利)へコースの吉野口駅—巨勢寺跡—
  - 6  
 ▽歴史散歩特別企画・お伊勢さん1・2・5社めぐり「第4回河津・大湊・神社のめぐり」 4月19日(日)集合早稲田駅(近鉄西)10時40分(上本町駅8時17分発快速急行が便利)へコース 伊勢市駅—河原田神社—山田奉行所跡—笠置神社—新宮神社—とんどこ市—二軒茶屋—宇治山田駅(約14分)参拝。社、参加
  - ▽歴史散歩特別企画・お伊勢さん1・2・5社めぐり「第4回河津・大湊・神社のめぐり」 4月19日(日)集合早稲田駅(近鉄西)10時40分(上本町駅8時17分発快速急行が便利)へコース 伊勢市駅—河原田神社—山田奉行所跡—笠置神社—新宮神社—とんどこ市—二軒茶屋—宇治山田駅(約14分)参拝。社、参加
  - ▽第9回健康とふれあいハイキング・ウォーキングトライ「龍勢路を歩く」 3月20日(日)阪南大22日(日)集合受付ときわ台駅前(宝塚線・川西能勢口で能勢電車乗換え、中・上級コース9時30分、初級コース9時30分、10時、へコース(初級)ときわ台駅—妙見口駅前—吉川—妙見橋線御道
- 阪急**
- ▽歴史散歩特別企画・お伊勢さん1・2・5社めぐり「第3回外宮めぐり」 3月1日(日)集合早稲田駅前10時10分(上本町駅8時23分発特急吉野—笠置—世宗寺—外宮—一日市—月夜見宮—伊勢市駅(約10分)参拝19社、参加自由会費200円(交通費各自負担)、雨天決行、上本町事業06(775)356
  - ▽歴史散歩特別企画・お伊勢さん1・2・5社めぐり「第3回外宮めぐり」 3月1日(日)集合早稲田駅前10時10分(上本町駅8時23分発特急吉野—笠置—世宗寺—外宮—一日市—月夜見宮—伊勢市駅(約10分)参拝19社、参加自由会費200円(交通費各自負担)、雨天決行、上本町事業06(775)356
  - ▽リンスポ1000ハイク「東六甲、北山公園、甲山(野の石仏巡り)コース」 3月8日(日)雨天中止、集合早稲田公園(夙川駅下車北へ徒歩3分)9時30分(出発16時)へコース 夙川公園—夙川上流緑道—銀水橋—北山公園—北山ダム—甲山(野の石仏)—番坂—甲陽園駅(約8分)一乗回(参加自由、坂登山の係06(373)5325)
  - ▽リンスポ1000ハイク「東六甲、北山公園、甲山(野の石仏巡り)コース」 3月8日(日)雨天中止、集合早稲田公園(夙川駅下車北へ徒歩3分)9時30分(出発16時)へコース 夙川公園—夙川上流緑道—銀水橋—北山公園—北山ダム—甲陽園駅(約8分)一乗回(参加自由、坂登山の係06(373)5325)

## 江南悠久旅情 (添乗員付) オリジナル

# 蘇州・無錫・上海・5日間

(全食付・観光付)

旅行代金 149000円 お一人当たり  
 (手数料・査証料金は含みません。)

旅行期日 平成4年5月10日(日)~14日(木) 第1班  
 平成4年5月17日(日)~21日(木) 第2班

## ハーティツアー HAWAII.ハワイ

旅行代金 138000円より お一人当たり  
 毎日出発(4泊6日)

全コース2名様より出発できる地球の楽園で保養しません?

お申し込み・お問い合わせは

主催 **南海国際旅行・団体センター**

**06-633-3388**

(運輸大臣登録一般旅行業第29号)一般旅行業務取扱主任者 赤羽俊則  
 〒556 大阪市浪速区難波中2丁目8番110号(大阪球場内文化会館3階)



●新ハイキング選書●  
最新刊 1月20日ごろ発売

第12巻

新ハイ東海自然歩道グループ 後藤典重編著

# 東海自然歩道を歩く

歩き続けて2,174、470歩

A5判・並製本・112頁  
定価 1,300円(税込)

1,343キロ完歩の記録

小林 経雄 著

第13巻

# 甲斐の山山

B6判・上製本・360頁  
定価 1,800円(税込)

この本では、甲州の山々を百山、二百山といわず、なるべく多く紹介しようと思いた。個々の山について、それがどんな山かを浮き彫りにさせるため、位置、地形、地質、植生、林相、眺望、山名由来、その山にかかわる歴史などを客観的に記す。

第9巻 品切れのところ重版発売。

定価 1,650円(税込)

新ハイキング社編 一等三角点の名山100

発行所 新ハイキング社  
東京都北区滝野川7-6-13

電話東京3-146915  
☎(03)3915-8110

●雑誌の振替での  
ご注文は送料当社負担

# せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。常時投稿下さい。  
1行15字詰20行以内に。

題字・小林玻璃三

11月16日の、河波・五台山へ。  
妻佐次盛一老長原内家の山(上)にも注釈されているが、この山の登山路は様変わりしている。雑草の茂る所に茶臼石があり、ここから登る道が記されているので、これをたどってみる。平成元年に、かつて、三浦湖古湖と呼ばれていた湖を通過した山道となりたると、五台山の東の麓にたどって、山頂はすぐそこ。

山頂は切り開かれて展望台まである。市島町側から鶴岡峠をへて山頂まで、立派な歩道がつけられていたとのこと。  
くんだりには、苗圃の母屋口へ。こちらは茶臼石のまま。方向を定め、またかたでない踏み跡をたどり、なんとか目的の地へくだることが出来た。(安田善三)

昨午の秋、妻と二人の子どもと一緒に、雑木林でまきのこけりを楽しんで、アミタダ、チチアワタケ、ヌメリイグサ、などでアタク抜き、たっぷりのお腹おろしで食べ、残りの味噌汁に入れた。  
春になると、つくしを摘み出す

(西村隆夫)



どこへ行こうか  
SHC関西サービス  
チェーンへ

①サービスチェーンを利用するときは、電話か往復ハガキで必ず予約をして下さい。  
②予約のときに料金を確認して下さい。

秩父鉄道「クーポン券も  
秩父 不動の湯

〒368  
埼玉県秩父市山田243-2  
電話 04941231126

富士登山・富士五湖  
東海自然歩道  
(石部山・ハリモミ森林)  
三田山の麓  
ペンション コットンテール  
〒401-06  
山梨県南都留郡山中瀬村平野  
電話 055516518515

四季降りなす奥谷五原のハイイク  
上野原・車輪橋へ。冬はスキー  
けやき道りと味の宿・日取道  
温泉旅館 けやき山荘  
〒390-15  
長野県南安曇郡安曇村東萩高原  
電話 02631932555

燃える火をじつと見ているとなぜか心がなごみ、おだんよりおしやべりになる。心地よい会話が弾む。魚や鳥肉を野菜と一緒に火きな煮でくるみ、焼けた石の上に置いて開通する石焼き料理。ホットケーキミックスを茹のにこれて、木の枝に巻きつけておきさないようにして焼く木の板パン。青竹に日本酒を入れた火で燗をつけたカッポポ。ほてった顔に流水で冷やしたビールがうまい。

食事をつくったり、体を暖めたり、キャンプファイヤーと、焚火は野外生活の中心ともいえる。映画「ダンス・ウィズ・ウルブズ」でも、タンパ・由城がひとり火のまわりを踊る。それを見つめると愛馬シスコと狼トーンソックス。美しい光景だった。(木田秀樹)

久しぶりに、近くの交野山に行った。頂上に梵字の刻まれた大岩があり、近くに開元寺があった由緒ある山である。だが、近くにブルフ橋ができて橋が一新。交野市神守町から石仏の道と名づけられた道が整っている。左右にせせらぎ。かつてはこの谷

に沿って道は鞍馬まで続いていた。ところが……。石仏をいこうと体ほど見やうたあたりで、契徳橋が陸奥の新しいものになっている。府立林の看板のあるあたり。かつての道はその右の草むらの中に……。道は荒れてはいるが歩けないことはない。せせらぎの中を行く道、昔むした石、刻木等ほどよく荒れていて、ふと水気の多い京都北山を歩いている気分になる。

どうしてこの道を、石仏の道として残まで残さなかったのか。婦りに新しく造られた道を降りてきたが階段が多くて、ひざをすっかり痛めてしまった。(幸本精也)

1991年10月、いつも行く本屋の店頭で、ヒマラヤかな、と心ひかれる表紙の雑誌を見つけた。「新ハイキング」と題された本の目次には、懐かし山々の名が並んでいた。私は迷わず一冊買った。頁をめくっていると、忘れていた山名が思い出される。土を踏む、岩を踏む、ガレを降りる、あ

の雑誌の感懐。つい先日、昔の仲間たちと約30年ぶりに会った。そしてロープウェイは使ったものの、北八ッ岳の終極山荘へ行き、雨池で泳ぎで登った。あの池をなでる冷気、歩くと感じる崩雪の音、そして、心地好い疲れ。

そんなことを思いながら、ページを繰る。そよだ、表紙の山ほどこだわろう。原画は、版画なのだろうか。拍案のたつだろうか。

目次の上に、ダツラギリと書いている。その続きにある作者の名前、プロフィールを見て驚いた。

先日、昔の仲間達と行った雨池時。その準備のため、25年以上も昔のなかつた休日の準備作りを始めた。

6月15日、7〜8人が集まり、それぞれが持ち寄った30人あまりの名簿と、呼び掛け文に返信はがきを同封、発送した。

雑々と返信があり、70名ほどの住所が判明した。その中にも、もうとうに解散したと忘れている気配の会が、今も続いている。雑誌山と深谷には会員の記事が出ていた。そして会長の名前は、

あの当時高校生だった藤原氏という知らせがあった。

私は早速、彼の電話番号を知らせてもらった。二、三日後の7月26日に招き来る会へ、特別ゲストとして来てもらえないかと電話した。急な誘いにもかかわらず、彼は、懐かしい人達に会える、と二つ返事で承諾してくれた。

その会の名は、「山と野に親しむ会」。藤原氏から聞いた現在の会友の名は、松正武氏。この方の名前には、去る5月、銀座都田町中央図書館のキヤラリーで見たたずき山の版面の作者として覚えていた。私は、あまりの偶然にびっくりした。

そして、今また「新ハイキング」の出版。どこかで見たようなタツチには思っていたのだが。

この文を書きながら、もうすつと遠い昔のことのように思っていた。「山と野に親しむ会」が、最近で動き出したような気になった。約30年の年月が、懐かしくかへ行つてしまふ。私の白頭をさらへる始末すれど良いのか、とまでいとも何とも、不思議な気分である。(かき木かつ子)

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。日頃の山行の報告、思い出感、雑談など。又山歩きやハイキングについての意見、自然に関するさまざまな情報を寄せ下さい。今月号は投稿が少ななくてわずかですが、ページがあまりながいので、かき木かつ子にページを割き、号を五冊ほどにページを割きしていただきます。1行15字程度で28行以内(3000字程度)で、常時投稿可。

○「山の会、会報募集」は、広範囲のページが決定しています。今月号はありますが、次号より新設したいと思えます。会報掲載を考えておられる山の会は何ぞ、その活用下さい。1行15字程度で15行程度で原稿をお寄せ下さい。次号発行は9月10日発行です。(会報費は1件に付き、6000円)

○「サービステーション」は新ハイキングクラブ関西(SHC)関西に定員を決定して頂いている旅館、山小屋などを、各館のサービステーションはそれぞれ違いがあります。宿泊山行の折には是非共々利用下さい。その際は必ず

電話か往復ハガキで予約を下さい。予約の際は会員であることを生付料金を確認して下さい。ご利用のときは会員証を持参して下さい。

尚書者の方で、お気に入りの旅館、山小屋などありましたら、推薦理由をお書きのうえ、当会までハガキで御連絡下さい。



<p>并々たつより近せる温泉と花々軒千のシャブシャブ日本海の鯉と山の幸ハイカーの宿</p> <p>ナガサキロッジ</p> <p>〒949-121 新潟県中越後郡妙高町池の三温泉 電話 0255-8612261</p>	<p>高山の花、遠原の花</p> <p>妙高山と火打山百名山を二つ登れる山小屋</p> <p>黒沢池ヒュッテ</p> <p>〒949-121 新潟県中越後郡妙高町池の三温泉 電話 0255-8612261</p>	<p>休職昼食入浴も歓迎10名以上マイクログラスで送迎</p> <p>箱根仙石原温泉 福 屋 館</p> <p>〒250-106 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1339 電話 0460-1490041</p>	<p>山小屋風のペンション南アルプス北詰・八ヶ岳登山山女釣り(中央線日野駅より送迎可)</p> <p>フローラル・ヒュッテ</p> <p>かぶと村</p> <p>〒408 山梨県高根町下黒沢242-1の4 電話 0551-472541</p>
--	--	---	---

<p>日本最高位の温泉 (24000℃)</p> <p>立山・宝湯平</p> <p>みくりが池温泉</p> <p>運送先</p> <p>〒930 富山県五箇末広町 電話 0764-410434</p>	<p>ハイキングにノースキーにノースキー</p> <p>志賀高原 石の湯ロッジ</p> <p>バス 船の湯線平床下車</p> <p>〒269-134 2421 電話 0269-13421</p> <p>東京本社・東京都新宿区新宿3-1-2015(新丸の内線) (株)スポーツサービス 電話 03-3341-0211</p>	<p>黒姫山・妙高火打山・飯沼山登山・苗名池ハイキング</p> <p>大自然が奏でる四季の詩</p> <p>日蓮寺 シヤレー 黒姫</p> <p>〒389-13 長野県上水内郡信濃町黒姫高原 電話 0262-553171</p>	<p>館内より日本カモシカ毎日印刷以上と、北アの奇形風景、北ア全体の大規模の湖、春は山菜等、豪華風呂・露天風呂</p> <p>あるまじい 満山荘</p> <p>〒338-2 長野県上水内郡 高山村山田牧場・黒山田温泉 電話 0262-14122527</p>
--	---	--	---

### 山行計画 SHC関西

ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「若しくは限ること」を付記してあるほかは会費外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように集めて申し込んでください。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代等を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなかった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係「保険料」(約50円)・夜行口開きの運賃は2日になり1000円を支出して頂きます。(ハイユイ保険会社と契約)

傷害保険料の内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金	1000万円
入院保険金	50000円
通院保険金	25000円
日額	5000円

保険料の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。

①バックル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行、②スキー使用の山行、③沢・岩・水邊登山を目的とした山行、④遊歩道場内の事故、(詳細は係まで)

### (記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 〇〇〇〇

期日 〇月〇日

住所 〒〇〇〇〇

電話番号 〇〇〇〇〇〇

氏名 〇〇〇〇

会員番号 (役員でない方は会員外と記入)

生年月日 (年)月(日)

緊急時の連絡先 〇〇〇〇

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

- 京都山歩き
- 電ヶ岳 (一般向き)
- 期日 3月8日(日)帰り
- 集合 京都駅東口都バス乗り場
- コース 京都駅→清滝→サカサマ峠→岩倉峠→一蔵ヶ岳→安曇山→水尾峠→水尾
- 費用 約1000円(交通費)
- 地図 昭文社「京都北山」
- 係 〇〇〇〇
- 申込み 田大群10の10村田まで
- コース 田大群10の10村田まで
- 雨天中止。
- スケッチハイキング1
- 比良を描こう (一般向き)
- 期日 4月12日(日)帰り
- 集合 京都駅3番ホーム(関西線)
- コース 京都駅→志賀駅→大物杉
- 費用 約1200円(交通費)

- あなたのふる里になりたい
- スキー場まで歩いて1分
- 白馬ファミリーペンション
- 和田 田 森
- 〒399-193 長野県北安曇郡白馬村八方和野
- 電 0266-1172-5351
- 八ヶ岳南北走道の中心地
- 59年秋新築完成全館個室
- 木の香がうる新築生木湯
- オーレン 小屋
- 1泊2食付き 45000円
- 〒399-1132 4月1日〜12月31日
- 茅野市豊平2720 小平 勇
- 電 0266-1721-1279
- 日本唯一の女公衆浴の山(大雪山)
- 「百名山」の登山口もあり
- 新河ヶ岳女人コースもあり
- 温泉・名水の里
- 旅館 紀の国屋荘八
- 1泊2食付 77000円から
- 〒638-1004
- 奈良県吉野郡天川村河川
- 電 0747-6141-0309
- 九州の最高峰・日本百名山
- 宮の浦岳に一番近い宿
- 屋久島安房登山口
- ホテル 磯辺荘
- 屋久島宮地からバス10分
- 〒899-1143
- 鹿児島県熊毛郡屋久町安房
- 電 0997-4161-3021

ただし志賀駅まで各自で買って集合して下さい。

地図 昭文社「比良山系」

係 〇〇〇〇

申込み 〒610-0101 城陽市寺田今地2の77松正まで

比良山系では第一級の展望地

クワトロノハゲでスケッチをします。

ポイントほめてしません。スケッチブックと描画具を持参のこと。雨天中止。

北山の一番美しい頂です。やわらかな新芽が一面に芽吹き、心なごむコースです。尾根歩きも谷歩きもあります。雨天中止。

大和葛城山から

平石峠 (一般向き)

期日 4月19日(日)帰り

集合 近鉄御所駅9時

コース 御所駅→葛城ローアウェイ前→権羅ノ滝→葛城山

一峰峠→大葛山→平石峠

一級城壁

費用 約1500円(近鉄御所御所駅)

地図 2万5千→大和葛城山御所

係 〇〇〇〇

申込み 〒338-0000 松原市岡2の2

奈良県と大原野の国境を奈良盆地と大原野を見渡しながら歩きましよう。雨天中止。

村ヶ岳 (往復) 一下市口費用 約1万円強(宿泊代等)

地図 昭文社「大峰山脈」

係 〇〇〇〇

申込み 田大群10の10村田まで

前夜は温泉で宿泊し、翌朝村ヶ岳を往復します。標高1970m。

宿泊はサービスチェーン「紀の国屋荘八旅館」です。雨天決行。(会員に限る20名まで)

鈴鹿・宮崎峠 (一般向き)

期日 4月29日(日)帰り

集合 鈴鹿市山本町バス停「山本」9時

コース 山本→小段須賀→大石橋→東海線→宮崎峠→小段須賀→大石橋

費用 保険代50円のみ

地図 昭文社「御在所・筆ヶ岳」

係 〇〇〇〇

申込み 〒519-1033 鈴鹿市大久保町2055 御所まで

シロヤシオがいっぱい。雨天中止。

### 会員募集

#### 大阪低山跋涉会

主に日帰りで関西の山々を巡り歩いてはなりません。ハイキングから難登山まで、少人数のメンバーで山と自然に親しんでいるグループです。

少し遠くへ足を伸ばしたいけど一人では自信のない方。登山ガイドにも紹介されていない静かな山や野を歩いてみたい方。私たちはそんな新鮮な登山スタイルを求めています。どうぞご入会ください。

40才以上の男女であれば経験は問いません。入会は随時。地形図の読み方、三角点のことなど親切にご指導致します。62円の手回りの上左記へ。

〒536 大阪市城東区野江2の5の10

渡佐次盛一

京都北山歩き

魚谷山・二ノ瀬ユリ (一般向き)

期日 4月12日(日)帰り

集合 北大路駅(地下鉄)バスターミナル午前8時

コース 北大路駅(タクシー)→父谷林道→狼神→(狼尾)→魚谷山→流谷峠→(二ノ瀬ユリ)→夜泣峠→二ノ瀬駅→山出御所

費用 約2000円(タクシー代含む)

地図 昭文社「京都北山」

係 〇〇〇〇

申込み 〒610-0101 城陽市寺田大群10の10村田まで

費用 約1500円(近鉄御所御所駅)

地図 2万5千→大和葛城山御所

係 〇〇〇〇

申込み 〒338-0000 松原市岡2の2

奈良県と大原野の国境を奈良盆地と大原野を見渡しながら歩きましよう。雨天中止。

大峰・積村ヶ岳 (一般向き)

期日 4月25日(日)26日(祝)泊

集合 4月25日(日)出下市口駅午後1時(1時15分発乗車)

コース 下市口→河川温泉→福

費用 約1000円(交通費)

地図 昭文社「京都北山」

係 〇〇〇〇

申込み 田大群10の10村田まで

コース 田大群10の10村田まで

雨天中止。

スケッチハイキング1

比良を描こう (一般向き)

期日 4月12日(日)帰り

集合 京都駅3番ホーム(関西線)

コース 京都駅→志賀駅→大物杉

費用 約1200円(交通費)

山行報告

国見岳

12月1日(日)晴  
 湯の山温泉駅8・40(乗合)―鈴鹿スカイライン香滝トンネル上の駐車場8・55―香滝大橋9・00―藤内小径9・28―9・35―赤不動10・05―10・10―ゆるぎ岩10・50―11・00―国見岳11・13―12・00―御在所カモンセンター12・25―13・00―御在所岳東ピーク13・10―富士見台13・15―(これより中道)―負れ岩14・08―14・12―北谷(真道)分岐14・25―御在所山の家14・35―鈴鹿スカイライン料金所14・38―香滝トンネル上の駐車場14・45―湯の山温泉15・00(解散)

12月というのに小春のような一日でした。登の雑木もみちがとてきれいでした。  
 (参加者) 〇新見逸夫 〇新町幸夫 他3名 計5名

半国高山

12月22日(日) 晴  
 京都駅JRバスのりば8・30(乗合)8・50―杉坂口9・50―10・00―伊賀坂峠10・45―半国高山11・55(昼食)12・55―大谷路13・10―持越峠14・20―14・30―白滝橋14・40―15・04―北大路駅15・40(解散)

12月とは思えない暖かな日で、のんびりとした。出町初級―若狭橋間のバス時刻が12月16日より変更になっていた。

(参加者) 白井 公 井上保三 稲本芳雄 傍田治美 傍田昌子 奥比呂美 植村辰夫 星野正弘 吉野啓二 吉野 朋 長谷川光孝 竹内康雄 西村義明 平瀬一 甲村洋子 西津基子 山口恵美子 所 幸絵 奥山繁二 大宮隆枝子 船田幸子 〇中西信行 村田智俊 計23名

明日・陸山  
 1月15日(日) 晴  
 京都駅JRバスのりば8・30(乗合)8・50―安土近江9・55―10・20―田尻橋村10・55―11・05―松尾峠11・50(昼食)12・40―朝日

半国高山にて(12月22日)



13・00―峠山14・25―14・40―高山寺15・25(解散)15・51―京都駅16・30  
 前日の疲労がわずかに残り、朝日峰へのササ道ですみぬれたが、あとはうっすら雪のユリ道を快適に歩いた。風のないよい日でした。  
 (参加者) 山本信子 三木節子 奥比呂美 白井 公 矢代裕子 西村義明 星野正弘 吉田天智子 傍田治美 砂川 孝 砂川武志 砂川浩之 奥山繁二 山口恵美子 井上保三 平野国三 水本加津未 辻 和子 〇中西信行 村田智俊 計20名

会員募集

KKG京都北山グループ  
 「京都北山」をメインに関西の山一円へ日帰りハイキング・四季を兼じて、月3〜4回、年間10回以上山行しています。遠征もあり。  
 特に「京北北山」は主要なルートのため、未知への道探りをモットーにして、知られないコースも歩きます。「京北北山」を歩いてみたい方はどうぞお申し込み下さい。  
 経験、年齢、性別は問いませんが、入会に随時申し込みお伺い合わせは左記へ。  
 (事務局)  
 〒602 京都市上京区榎木町小川西入ル 出口遊水方  
 TEL 075(211)0934

新ハイキングクラブ関西 入会のすすめ

この山歩き、山行例会を通して正しい山歩き、たのしい山仲間たちといっしょに味わいませんか。リーダー(役)はすべて無償の奉仕で、各自で財布を買い茶代を払います。宿泊料もすべてフリーカンです。新ハイキングクラブ関西の活動はまだ始まったばかりです。あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしい山仲間になりませんか。会費には毎月「新ハイキング」別冊関西の山(年間6冊)をお送りします。会費はこのページの山行例会に参加できます。入会金 500円(パッケ代) 年会費 2500円(送料共)です。即手代300円をお送りください。新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の返信用紙をご利用ください。返信用紙から必ず必ずと表示下さい。

〇新入会員紹介  
 深谷 泰 若尾悦子 水田千代子 西村義明 佐藤和家 今中洋子 木村輝彦 水杉京子 黒川朝雄 辻 和子 長谷川 謙 奥川真智子

- |          |      |       |      |       |        |
|----------|------|-------|------|-------|--------|
| 藤井孝子     | 飯塚 隆 | 金子征子  | 坂本忠次 | 引間崇夫  | 木田厚志   |
| 松本光次     | 後藤生隆 | 黒田彰一  | 奥村清一 | 佐藤隆雄  | 元持修男   |
| 川島一郎     | 川島美弘 | 松野一希  | 三木民子 | 長尾雅平  | 角井昭太郎  |
| 西村洋子     | 松本福志 | 谷口登美子 | 伊其智子 | 保井亮子  | 谷口昌代美  |
| 河合文信     | 岡村美邦 | 八木次 隆 | 胡乃孝之 | 梅本和彦  | 吉田光善   |
| 池田一幸     | 池田幸子 | 増田あみ子 | 吉田昭子 | 年野治文  | 藤原 幸   |
| 森川一夫     | 高井賢治 | 石田真由美 | 余谷博史 | 川西幸夫  | 林 辰吉香  |
| 大野節子     | 酒井和子 | 深井美由美 | 沼田元光 | 加藤仁三  | 山 辰雄   |
| 藤村雅博(特別) | 山本昌子 | 川崎紀久子 | 伊藤 豊 | 稲塚克己  | 久我昌房   |
| 飯田寛子     | 中村賢一 | 橋本千鶴子 | 村山良子 | 杉山光広  | 杉山昭美   |
| 星野正弘     | 高野良昭 | 三致キネ子 | 石川栄一 | 谷 勝造  | 三田善江   |
| 川崎正彦     | 高野正三 | 上井恵美子 | 堀内忠夫 | 一谷正二  | 広瀬千恵子  |
| 山本安志     | 壬生繁人 | 太久保 薫 | 山本正彌 | 山内隆夫  | 林 吟次郎  |
| 石原順次     | 山田和男 | 山口重美子 | 西田正治 | 中川博史  | 本城吉朗   |
| 三宅一夫     | 手塚貞雄 | 田中和夫  | 田中順子 | 其川邦保  | 岸 邦彦   |
| 榎木京子     | 西田精茶 | 藤田とし子 | 西原 昇 | 奥田徳子  | 清水いく代  |
| 金谷 昭     | 岡田幸子 | 小川信子  | 横原 一 | 櫻井光子  | 沼辺敦子   |
| 田中 良     | 野村良夫 | 丹敷辰郎  | 海原明人 | 島田輝子  | 工藤孝子   |
| 安藤正弘     | 浅井和子 | 藤本成一郎 | 横谷洋子 | 藤部 勇  | 藤部かつ美  |
| 片桐節子     | 野村良夫 | 小川信子  | 小島 浩 | 中江治治  | 柚田美砂子  |
| 岩本 彰     | 平山正良 | 吉田美穂子 | 小島一喜 | 平塚泰和  | 長谷川一江  |
| 須賀隆司     | 岡田幸子 | 山本信子  | 宇田弘子 | 江口 橋  | 白鳥美智子  |
| 山崎 剛     | 所 幸絵 | 上野明人  | 高津盛江 | 猪俣 洵  | 岩倉康太郎  |
| 松江善孝     | 所 幸絵 | 綿引三津男 | 青木良正 | 山本浩吉  | 藤田ヤネ子  |
| 井上悦子     | 高津 謙 | 金谷てる子 | 向川一夫 | 向川とよ子 | (以下次頁) |
| 保田 博     | 田原保正 | 引所 篤  |      |       |        |
| 石原順子     | 今井和美 | 引所 篤  |      |       |        |

東云版

「新ハイキング」(月刊) 定期購読のすすめ

東京の「新ハイキング」誌は月刊です。昭和55年創刊で、以来毎年全国各地のハイキングファンに親しまれています。  
 関東、甲信越の山を中心に北海道、東北から九州までハイキング情報がいっぱいです。  
 定期購読を希望の方は、  
 入会金 500円  
 年会費 5400円  
 です。郵便振替をご利用いただき左記へお申し込み下さい。  
 〒114 東京都北区滝野川7-6の13  
 TEL 03(3912)8110  
 振替口座 東京31146915

新ハイキング社